



雪印メグミルクグループ

活動報告書 2013

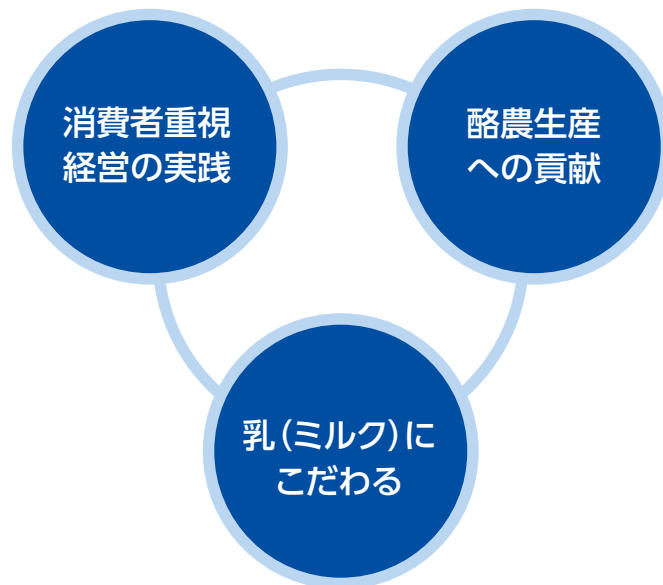
～雪印メグミルクグループ
CSRの確立に向けて～

雪印メグミルクグループ企業理念

私たち雪印メグミルクグループは、重要なステークホルダーであるお客様・消費者そして酪農生産者の皆様の期待に応えていくこと、私たちの原点である乳（ミルク）にこだわり続けていくことが使命であると考えています。雪印メグミルクグループ企業理念には、この使命を果たすことで社会に貢献する企業であり続けるという私たちの強い意思が込められています。

雪印メグミルクグループの企業理念は、
「私たちの使命」と「コーポレートスローガン」で構成します。

私たちの使命



私たち雪印メグミルクグループは、3つの使命を果たし、
ミルクの新しい価値を創造することにより、社会に貢献する企業であり続けます。

コーポレートスローガン

未来は、ミルクの中にある。

編集方針

本報告書は、消費者・従業員をはじめとする全てのステークホルダー※1に雪印メグミルクグループの活動をご理解いただくことを目的とし、雪印メグミルクグループが2012年度に取り組んだ幅広いテーマについて総括するとともに（一部、2013年4月以降の取組みについてもお伝えしたい記事を掲載）雪印メグミルクグループの目指すべき方向性についても掲載しています。

1. わかりやすい構成・表現を心がけました

- (1) 雪印メグミルクグループはCSR※2経営を掲げており、その内容をまとめて記載しました。
- (2) 文章は平易な表現を心がけ、さらに説明が必要と思われる内容については補足説明として記載しました。

2. 社外の声を反映して制作しました

- (1) 制作段階で企業倫理委員会と、その専門部会である消費者部会、また活動報告書2012アンケートでのご意見の内容を反映しました。
- (2) ステークホルダーの方々より雪印メグミルクグループの取組みをご評価いただくとともに、今後の方向性もご示唆いただきました。

3. お客様・消費者の併記について

雪印メグミルクグループでは、雪印乳業食中毒事件（P45）の反省を踏まえて、消費者が持つ基本的な権利を尊重することを認識し、単に「お客様」だけではなく、「消費者」全体を重視する経営を進めています。そこで消費者の中に「お客様」を位置付けた上で、「お客様」と「消費者」の2つの概念を併記して表現しています。

なお、消費者基本法では消費者の8つの権利を尊重し、消費者の自立を支援すること、事業者としての5つの責務を果たすことなどが基本とされています。お客様もこの「消費者」の中に含まれると考えています。

※1 ステークホルダー：

企業を取り巻く利害関係者。自社の活動に関わる人、そこから影響を受ける人の全てを指します。また地域社会や行政なども含まれます。

※2 CSR：

Corporate Social Responsibility（一般的に「企業の社会的責任」と訳されます。）

私たちの 3つの使命

消費者重視経営の実践

雪印メグミルクグループは、消費者基本法に定められた「消費者の権利」と「事業者の責務」をしっかりと認識し、

- 安全で安心していただける商品・サービスを提供すること
- 可能な限りの情報提供、情報開示を行なうこと
- 消費者の声を傾聴し、経営に反映していくこと
- 危機管理の体制を整え、不測の事態に迅速かつ適切に対応していくこと

を基本姿勢として、消費者重視経営を実践していきます。

酪農生産への貢献

私たち雪印メグミルクグループは、日本の酪農を基盤として成り立っています。私たちは、酪農生産者の良きパートナーとして信頼関係を深め、乳の価値をしっかりと伝えていくことで生産者の想いに応えていきます。

そして、牛乳・乳製品の需要拡大を実現することで、国内酪農生産の基盤の強化と持続的発展に貢献していきます。

乳(ミルク)にこだわる

私たち雪印メグミルクグループは、ミルクの持つ無限の可能性を信じ、ミルクに向き合い、ミルクにこだわり続けることで、ミルクの持つ可能性を「深め」、ミルクの価値を「高め」、世界に「拡げていく」ことを実現していきます。

おことわり

本報告書には、雪印メグミルクグループの過去と現在の事実だけでなく、発行日時点における計画や見通し、経営方針・経営戦略に基づいた将来予測が含まれています。この将来予測は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定な判断であり、諸条件の変化によって、将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なったものとなる可能性があります。読者の皆様には、以上をご了解いただきますようお願いいたします。

報告対象期間

2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)を対象期間としていますが、一部、2013年度の実績と将来目標についても掲載しています。

報告対象組織

本報告書に記載した情報は、雪印メグミルクグループ(雪印メグミルク(株)およびその関連会社)を対

象としています。ただし、対象企業全ての情報を網羅しているわけではありません。また、社名の表記のないものは、雪印メグミルク(株)の取組みです。

参考にしたガイドライン

- GRI「サステナビリティレポートガイドライン(第3.1版)」
- 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
- ISO26000(社会的責任に関する手引き)

発行時期

今回の発行：2013年6月
次回の発行：2014年6月予定
●本報告書は、年次版として毎年発行します。

お問い合わせ先

雪印メグミルク(株) CSR部
東京都新宿区本塩町13番地
TEL.03-3226-2064 FAX.03-3226-2163

目次 -Contents-

- 01 雪印メグミルクグループ企業理念
- 01 編集方針
- 03 トップメッセージ
- 07 雪印メグミルクグループのCSR経営

私たちの3つの使命

特集

- 09 酪農生産への貢献



- 13 消費者重視経営の実践

- 17 乳(ミルク)にこだわる

活動報告

- 19 地球環境保全への取組み
- 25 乳(ミルク)を通じた社会貢献
- 27 地域・社会への取組み
- 31 働きがいのある会社の実現のために

CSRマネジメント

- 33 コーポレート・ガバナンス
- 35 コンプライアンス
- 36 リスクマネジメント
- 37 雪印メグミルクグループの中期経営計画
- 38 国際規格ISO26000と雪印メグミルクグループ活動との対比
- 39 雪印メグミルクグループの概要
- 41 雪印メグミルクグループ各社CSRリーダーからのメッセージ
- 43 補足説明
- 46 ステークホルダーからのメッセージ
- 13～36 従業員の意欲を“私のチャレンジ!”として掲載



雪印メグミルク(株) 代表取締役社長 **中野 吉晴**

企業理念である、「3つの使命」とコーポレートスローガン 「未来は、ミルクの中にある。」に込めた想いが、 私たちのCSRの原点です。

米国経営倫理学会(Society for Business Ethics:以下、SBE)の創設者の一人であるワーヘン(Patricia H. Werhane)米国DEPAUL大学教授(以下、敬称略)と、元SBE Newsletter 編集長のヴォルフエ(Regina Wentzel Wolfe)米国DEPAUL大学教授(以下、敬称略)との対話を通して中野社長が、雪印メグミルクグループのCSR経営と目指す方向性について語りました。

■はじめに

ワーヘン:ヴォルフエ教授は以前、雪印乳業の食中毒事件後の企業再生の取組みについて、ダリル・ケーン教授(元SBE会長、聖トーマス大学教授)と西藤輝教授(元中央大学大学院総合政策研究科客員教授、SBE会員)と共同で研究発表されています。その取組みは米国企業社会に対しても良き経営モデルであり、次世代を担う学生たちにとっても最良の教材であると

考え、私はその論文をDarden School of Businessが発刊する『Darden Business Publishing』に掲載することを推薦させていただきました。

本日は中野社長より直接合併新会社のスタートに際し苦労されたことや、現在の雪印メグミルクグループのCSR経営についてお聞かせいただけることを楽しみにしています。

■異なる企業文化を一つにするために

中野:最初に、当社の取組みに関心を持って見ていただいていることに対して、深く感謝申し上げます。

雪印メグミルク株式会社は、2009年10月に雪印乳業株式会社と日本ミルクコミュニティ株式会社の持株会社として設立され、2011年4月にこの3社が合併し、新たに雪印メグミルク株式会社としてスタートいたしました。

現在、当社のCSR経営は、基本的には旧社時代に取り組んでいたことをベースに、時代に則して適宜変革を加えながら様々な活動を着実に継続して行なっています。

しかし、やはり合併というのは大きなエネルギーを要しますし、異なる企業文化が一つになるということはたやすいことではありませんので、色々な工夫が必要でした。

合併で一番大切なことは、新会社の存在意義や目指すべき方向性をきちんと組織の中に認識させることです。

インタビューアー

Interviewer



米国経営倫理学会

Patricia H. Werhane(ワーヘン) 氏

米国の代表的なCSR研究者。バージニア大学・ダーテン ビジネススクール名誉教授。デポール大学(DEPAUL University) 企業倫理ウィックランダー 議長(Wicklander Chair of Business Ethics)。米国経営倫理学会(Society for Business Ethics)の創設者の一人で、1980年から1983年まで同学会会長を務め、現在も同学会を代表する一人として活躍中。



米国経営倫理学会

Regina Wentzel Wolfe(ヴォルフエ) 氏

デポール大学(DEPAUL University) 企業倫理上級ウィックランダー 研究員(Senior Wicklander Fellow of Business Ethics)。元米国連合神学大学倫理学客員教授。元米国経営倫理学会Newsletter編集長および元キリスト教倫理協会事務局長。



米国経営倫理学会 Patricia H. Werhane(ワーヘン) 氏



米国経営倫理学会 Regina Wentzel Wolfe(ヴォルフエ) 氏

具体的には企業理念をいかに浸透させるかが最大のポイントであると考えています。

わが社は、様々な経歴や経験を持った人が集まって一つの会社を立ち上げたわけですが、私たちにはそれぞれが「ミルク」に携わってきたという共通点がありました。ミルクに関わる事業を通して酪農生産者の方々や関係者の皆様と一体となって、日本の酪農乳業を盛り上げていこうという想いは同じで、その想いが求心力になっていると感じています。

特に、当社の前身の一つである雪印乳業は「2つの事件」により社会からの信用を失ったという苦い経験を持った会社であり、もう一つの前身である日本ミルクコミュニティも雪印の事件が契機となって生まれた会社ですので、雪印メグミルクとしてはこの事実を重く受け止めています。

■ 企業理念に込めた想い — CSR経営の原点 —

ワーヘン:「事件に対して重く受け止めている」という点についてもう少しご説明ください。

中野: 私はある意味で当社は「社会から生かされ、もう一度社会に貢献するチャンスを与えられた会社」であると思っています。また、社会に貢献できる会社にならなければならないと強く思っています。その意味で、以前の所属に関係なく、全社員に新しい会社としての共通意識を持ってもらうことが大事だと思っています。

企業理念である「3つの使命」とコーポレートスローガン「未来は、ミルクの中にある。」、その中に全ての想いが込められています。

ここに、当社のCSR経営の原点があります。

ヴォルフエ: 御社の前身である2社はそれぞれに異なった企業理念を掲げ、その実現に向け活動をされてきたと思いますが、合併に際して理念やCSR活動を統合し、一致させていくためのアプローチは困難ではありませんでしたか？

■ 原点を見失わない

中野: 先ほども申し上げた通り、ともに「ミルク」に携わるということは共通していましたので、表現は違えども理念的なものや活動内容には似通ったところが多くありました。しかしながら、雪印乳業には「2つの事件」を受け止めた上での再建のプロセスがあり、一方、日本ミルクコミュニティには新しい会社を作っていくのだという意気込みが強かったので、形は似通っていたとしても、ベクトルはずいぶん違いました。従って、理念や活動を一つにしていくというのは簡単なことではありませんでした。

合併から2年、「旧社の壁を取り払い新しい会社を自分たちで作っていくんだ」ということで色々取り組んでいますが、新しい企業理念の受け止め方にしてもそれぞれ微妙に異なるものがあります。

そこはもう少し時間をかけて努力し続けていくしか方法はないと思っています。

原点を見失うことなく、新たに掲げた企業理念の実現に向けて全役職員のベクトルをそこにどう集中させ、定着させていくかということに、今エネルギーを注いでいます。

■ 企業倫理委員会とCSR委員会の役割

ヴォルフエ: 雪印メグミルクにはガバナンスとして「企業倫理委員会」と「CSR委員会」がありますが、それぞれの委員会は全く独立して運用されているのか、あるいはどこか重なっているところがあるのかなど、相互の関係についてお聞かせください。

中野: 企業倫理委員会は、取締役会の諮問機関という位置付けで毎月必ず開催され、社外の視点で、雪印メグミルクグループのCSR経営全般に対し幅広くご意見をいただいています。

また、企業倫理委員会には品質部会、消費者部会、表示部会という3つの専門部会があり、それぞれのテーマに沿った活動をしていただいています。

一方、CSR委員会は社内の機関であり、企業倫理委員会からの提言や勧告を踏まえ、いかにしてCSR経営を実践していくのかということを主体的に議論し、進捗管理を行なう場です。

ワーヘン:それぞれの委員会は、どのようなメンバーで構成されているのですか？

中野:企業倫理委員会は現在11名の委員で構成されています。内訳は、消費者関連、法律、品質などの専門家である社外委員が7名、副社長、生産担当役員、CSR・品質担当役員の社内委員が3名、それに労働組合の代表1名です。委員長は社外委員の位置付けで日和佐信子取締役役に務めていただいています。

また、専門部会には、3名の専任委員にも参画いただいています。

・企業倫理委員会・専門部会委員一覧 →P44

CSR委員会は常勤取締役とCSR部長が委員で、私が委員長を務めています。また、常勤監査役2名も意見の言える陪席者として参画しています。

CSR活動の概念図と進捗管理

ワーヘン:御社のCSR方針は素晴らしい内容だと思いますが、CSRの3つの側面に則した活動をどのように分析、評価しているのかとても興味があります。経済的側面は本業との関係が密接であるため比較的数量化が容易であり、課題の特定や取り組みを評価していくことは可能だと思います。

一方、環境や社会的側面の取り組みについては分析、評価が難しいと思うのですが、この点についてのお考えをお聞かせください。

中野:ご指摘のとおり、CSR活動を数値で管理していくことは非常に難しいと感じています。

現時点で数値化しているのは、環境側面の取り組みである環境負荷の低減に関してのみです。CO₂排出量やエネルギー使用量、廃棄物発生量、資源のリサイクル率などについて年度当初に全社目標数値を定めた上で、工場や事業所のそれぞれの目標数値を設定して、四半期ごとにその進捗を確認しています。

しかし、社会的側面となると場所ごとに担っている役割や置かれている状況が全く異なりますので、現実的には数値での目標設定は非常に難しいです。

そこで、今我々は、各々の部署で自分たちに関わりの深いステークホルダーとCSRの3つの側面との関わりを意識して日常業務を進めていくことを目的として、全部署が自分たちの「CSR概念図」(木の模式図→P8)を策定しています。

このCSR概念図はグループ行動規範およびグループ各社の自主行動基準を遵守することで企業活動の基盤をしっかりと固め(根を張り)、企業価値という幹を太くしていき、そしてステークホルダーに対して3つの側面におけるCSRの活動という枝を広げ、葉を繁らせていくということをイメージしています。

社員は社会的側面における重要なステークホルダー

ヴォルフ:3つの側面に関連してもう一つ伺いたいことがあります。

アメリカのほとんどの企業では社員は経済的側面に位置付けられるのですが、御社の場合はいかがですか？

中野:社員は企業の構成員として経済活動だけに一生懸命取り組めば良いという認識には問題があると考えています。社員は企業人である前に社会の構成員であり、社会と深く関わりながら日々の生活を送っているという意識を持つことが重要だと考えています。環境に対する取り組みを例にとっても、企業人として環境保全に取り組むことはもちろんですが、自らの生活やくらしの環境を守っていくために取り組む、すなわち「自分事」として考えることが必要です。そう考えることによって活動がより主体的になっていくと思います。

また、企業の社会的責任の一つにその企業活動を通して、社会の持続的発展に寄与するということがありますが、そのためにはまず社員一人ひとりが生き生きと働くことができ、その家族も含めて幸せになってもらわなければなりません。これも企業が負っている重要な責任です。

そういった思いから、社員を社会的側面におけるステークホルダーと位置付けています。

ヴォルフ:とてもユニークで素晴らしい考え方ですね。

ダイバーシティにおける「女性の活躍」について

ワーヘン:最後に、ダイバーシティ(多様性)についてお聞かせください。

現在、アメリカでは国がダイバーシティの概念を重視し、企業に対してダイバーシティの促進を要請しており、企業側も重要な課題の一つに位置付けるようになってきています。

日本においても同様のトレンドがあると認識していますし、御社としても様々な取り組みを展開されているものと思います。

その中でも特に「女性の活躍」という点について、中野社長はどのように考えているのか教えてください。

中野:企業、特に私たち食品会社にとって、女性の感性や価値観は非常に重要であり、女性にどのように活躍してもらうかは大変重要な経営課題であると認識しています。

諸外国に比べ日本企業における女性のマネージャーは非常に少なく、当社はその中でもさらに遅れている方だと思います。この点に関して、過去の日本の経済発展の過程および日本型企業のあり方という視点で私の考えを少し申し上げたいと思います。

日本社会にはかつて「男性は外で働き、女性は家庭を守る」という考え方がありました。良いか悪いかは別として、そのような分業社会であったのだと思います。また今日とは異なり女性の結婚する年齢も若く、結婚後出産する子どもの数も多かったた



め、母親が外で働くということは、現実的にはかなり難しい状況だったと思います。

もう一つの視点は日本型企业経営の特色からです。最近はかなり違ってきていますが、従来日本は終身雇用、すなわち、定年を迎えるまで一つの会社に勤めるというのが一般的なパターンであったと思います。

経営層にしても、その会社で経験を積み役員に登用されるという人が多いのです。

日本企業は、比較的長期的なスパンで社員の成長を見ていく、また組織力やチームワークを重んじて企業活動を行なっていくという特徴があります。このような「日本型企业経営」の特徴が戦後の経済成長の原動力の一つであったと思います。

しかし、このように同一組織内で継続的に経験を重ね、キャリアを積み重ねていかなければならないということは、女性にとって実際問題としてハードルが高かったのではないかと思います。

当社がいわゆる総合職として女性を採用しはじめたのが1988年です。その当時入社した方が現在40代後半ですから、これからようやくシニアマネージャーとして登用される年代ということになります。

現在、当社には日和佐さん以外に、女性のシニアマネージャー以上の方が一人もおりません。しかし今後、ますます女性が活躍する時代、女性の活躍が不可欠な時代がくと確信しています。

そのためにも、これまでの日本企業のあり方や背景といったものに左右されず、女性が安心して働き、力を発揮してもらうための制度や仕組みの構築に注力していきたいと考えています。

◆ 今後の雪印メグミルクグループに期待すること ～ワーヘン教授・ヴォルフ教授からのメッセージ～

ワーヘン・ヴォルフ: 雪印メグミルクのCSR方針にあるように経済・環境・社会という3つの側面を意識し、バランスよく取り組みながら、企業の責任を果たしていくことは非常に重要だと思えます。

企業倫理委員会をはじめとして素晴らしい体制を構築され、第三者的には大変スムーズにCSR経営を進められているように

見えますが、実態としては決して平坦な道ではなく、現在もなお様々な課題と向き合いながら企業理念の実現に向けて取り組まれているということがよく理解できました。

女性の活躍という点についても、女性のシニアマネージャーの数を増やすための対応に着手されているとのことですが、会社としてのインフラ整備、すなわち有能な女性により安定的に働いてもらうことのできる仕組み作りが不可欠だと考えます。これからさらに女性社員の数も増えていくと思いますが、女性が心配していることや気になっていることというのは意外と些細なことです。女性社員どうしが意見交換したり交流したりできるネットワークの構築や、先輩社員から経験談や助言を聞ける機会があればとても役に立つと思います。ぜひそのような場作りをお願いします。雪印メグミルクグループの活動報告書にダイバーシティに関する記事や生き生きと女性が活躍されているというレポートが数多く掲載されることを心から期待しています。

インタビューを終えて ～企業理念の実現に向けて～

両教授とのお話を通して、改めて当社のCSRの原点を確認するとともに、当社が目指しているCSR経営の方向性を客観的に評価することができました。

昨今の企業を取り巻く社会情勢を見るに、不透明かつ厳しい環境が続いており、この状況は平成25年度以降も大きくは変わらないであろうと推察いたします。

このような状況だからこそ企業経営のベースとなるコンプライアンス、CSR経営の推進に役職員一人ひとりが真摯に向き合うことが重要であり、着実に取り組んでいこうと考えています。

コーポレートスローガン「未来は、ミルクの中にある。」に込めた想いを大切にして、雪印メグミルクグループの使命をしっかり果たすことで、ステークホルダーの期待と信頼にお応えしていけるように、今後もCSR経営を実践してまいります。

雪印メグミルク株式会社
代表取締役社長 **中野 吉晴**

雪印メグミルクグループのCSR経営

企業理念を実現するために、企業活動において、CSRの3つの側面(経済・環境・社会)を考慮し、社会とのより良い適合を図りながら、ともに持続的に発展していくための経営を推進しています。

雪印メグミルクグループCSR方針

基本的な考え方

- グループ行動規範、自主行動基準に則り、企業理念の実現に向けて行動する。
- コンプライアンスを基本とし、商品・サービスの安全確保(品質保証)の徹底を最重要項目として取り組む。
- 企業倫理を徹底するとともに、「社外の眼」を経営に反映し、社会から信頼される企業グループを目指す。

3つの側面に則した取組みテーマ

経済側面

主なステークホルダー

お客様・消費者、お取引先、株主

安全で安心していただける商品・サービスの提供を通して皆様の健康に寄与する

1. 「乳(ミルク)」の持つ可能性を追求し、技術の向上に努め、魅力のある商品を開発する。
2. グループ各社の持ち味を活かし、シナジー※を発揮することで安定した収益基盤を構築し、グループ企業価値を高める。

環境側面

主なステークホルダー

地球環境、地域社会

かけがえのない地球環境の保全に貢献する

1. 一人ひとりが環境保全への意識を高め、環境保全活動に取り組む。
2. 地球環境と資源を大切にするために、全社での環境保全活動を継続的に推進する。

社会側面

主なステークホルダー

お客様・消費者、酪農生産者、従業員

社会の要請に的確に応え、食の楽しさと大切さを皆様に提供する

1. 消費者基本法を根幹とした、消費者重視経営を実践するための取組みを推進する。
2. 酪農生産者の良きパートナーとして、酪農乳業界の持続的発展・国内酪農基盤の強化に貢献する。
3. 一人ひとりが主体的に行動し、活力に溢れた、働きがいのある企業風土をつくる。

※シナジー：各部門の相乗効果として、 $1+1=2+\alpha$ の α を生み出すこと。

コンプライアンス研修

ハラスメントをはじめとした事例に基づく発生原因、対応策、防止策および内在リスクの理解を目的に、法律の専門家である弁護士による「職場におけるハラスメント」についての講演とオリジナルテキストを使用した研修を、全国6ヶ所で、経営職・主任を対象に実施しました。



本社会場で講演する島田浩樹弁護士

CSR社員アンケート

雪印メグミルクでは、従業員の意識・行動が、会社の目指す方向に向かっているか、CSR活動の取組みにより従業員のCSRマインドが醸成されてきているかなどについて、毎年モニタリングを行なっています。アンケート結果は従業員にフィードバックするとともに、抽出した課題については、経営が対応の方向性を検討し、施策に反映しています。また、寄せられた自由意見全てを全常勤役員が読み込み、従業員の生の声に耳を傾けています。

・2012年度雪印メグミルクCSR社員アンケート結果(抜粋) →P43



CSRグループ活動

雪印メグミルクでは、CSRの確立を目的としてCSRグループ活動を実施しています。その活動内容は職場または事業所を一つのグループとし、全社を70グループに分け、グループごとにCSRリーダーを中心に全社統一テーマでの討議やCSR活動についての情報共有を行なっています。

また、「雪印メグミルク行動基準」を基本とし、コンプライアンスの徹底を目的とした活動も実施しています。



ミルクサイエンス研究所のグループ活動の様様

Voice CSRリーダーのコメント

グループ活動でCSRの根幹をともに学んでいます

行動基準の読み合わせや討議、年2回の事業所周辺の清掃活動や年間を通じた節電活動、また、CSRリーダーによる本社統一活動、外部講師による講演内容のフィードバックなどのCSR活動を積極的に行なっています。



雪印メグミルク(株)
ミルクサイエンス研究所
高野 義彦

雪印メグミルクグループと “ニッポンの酪農”

酪農の役割

基礎食品である牛乳(生乳)を生産する役割に加え、地域経済を支える重要な産業であり、飼料生産・放牧による農地の有効活用、エコフィード※による資源の循環利用、地域の景観や国土の保全にも貢献しています。さらに、酪農教育ファームなど食育活動においても貢献し、命を育む産業として役立っています。

※エコフィード:食品残渣などを利用して製造した飼料。

我が国の酪農

約100年前に誕生した酪農産業。1963年に酪農家数がピーク(42万戸・生産乳量286万t)を迎え、その後は経済成長とともに集約・大型化が進み、1996年に生産乳量がピーク(866万t)となりました。

ビジネスとして成長した酪農ですが、近年、国際化の伸展、輸入飼料価格の高騰、生乳需給の不均衡など、先行き不透明な経営環境にあります。

牛乳・乳製品の自給率

日本の牛乳・乳製品の自給率は65%(重量ベース)で、その他は輸入乳製品です。世界の生産量に占める貿易量は約7%と低く、天候や為替による価格変動リスクに加え、新興国の需要拡大から今後の乳製品需給は逼迫すると見込まれています。

食生活に欠かせない牛乳・乳製品を確保するために、自給率を高めることは、酪農・乳業の使命です。

雪印メグミルクの生立ち

2011年4月に誕生した新生雪印メグミルクですが、合併以前の各社はそれぞれが生産者団体を母体として生まれた歴史があります。約90年にわたって、酪農の発展を願い、生産者の皆様と歩んできました。

雪印メグミルクグループは、その想いをしっかりと引き継ぎ、生産者の想いを消費者の皆様に「おいしさ」としてお届けすることで、社会貢献を果たしていきたいと考えています。

私たちのこれから

日本の酪農を取り巻く環境は、さらに厳しさを増していますが、私たち雪印メグミルクグループはミルクの新たな価値創造による需要の拡大に加え、様々な形で“ニッポンの酪農”に、貢献していきます。

雪印メグミルクグループと酪農とのつながり

▷ 1933～

「酪農」誌の発行

雪印乳業の前身=北海道製酪販売組合連合会時代の1933年に発刊し、大戦中を除き月刊で発行。2002年から隔月刊となり、本年3月で通巻790号を数えています。

発刊当初から、酪農技術はもとより、社内外の情勢や地域のトピックなどの情報を発信し、情報が貴重だった時代から当社と酪農家をつなぐ情報誌として、酪農・乳業の連携に寄与してきました。

▷ 1948～

日本酪農青年研究連盟(酪青研)

戦後間もない1948年、北海道の若き酪農家達から始まった酪農の実践研究団体で、現在、約2,000名の会員を擁し全国的に活動を展開。雪印メグミルクグループは事務局として発足当初から継続的に支援しています。

特に、毎年、全国の会員が集って経営研究成果の発表を行なう日本酪農研究会は、昨年11月のつくば大会で第64回を迎えました。

(昨年の概要について → P11)

Web 酪青研ホームページ
<http://www.rakuseiken.com/>

▷ 1976～

酪農総合研究所(酪総研)

酪総研は、雪印乳業創業50周年を記念して1976年に株式会社として設立し、民間唯一の酪農専門研究機関として「わが国の酪農の発展と酪農民の生活向上に寄与する」調査、研究、普及活動を行なってきました。現在は雪印メグミルク社内研究所として、「酪農生産への貢献」に向け、自給飼料増産や酪農経営向上に向けた実践的活動を推進しています。

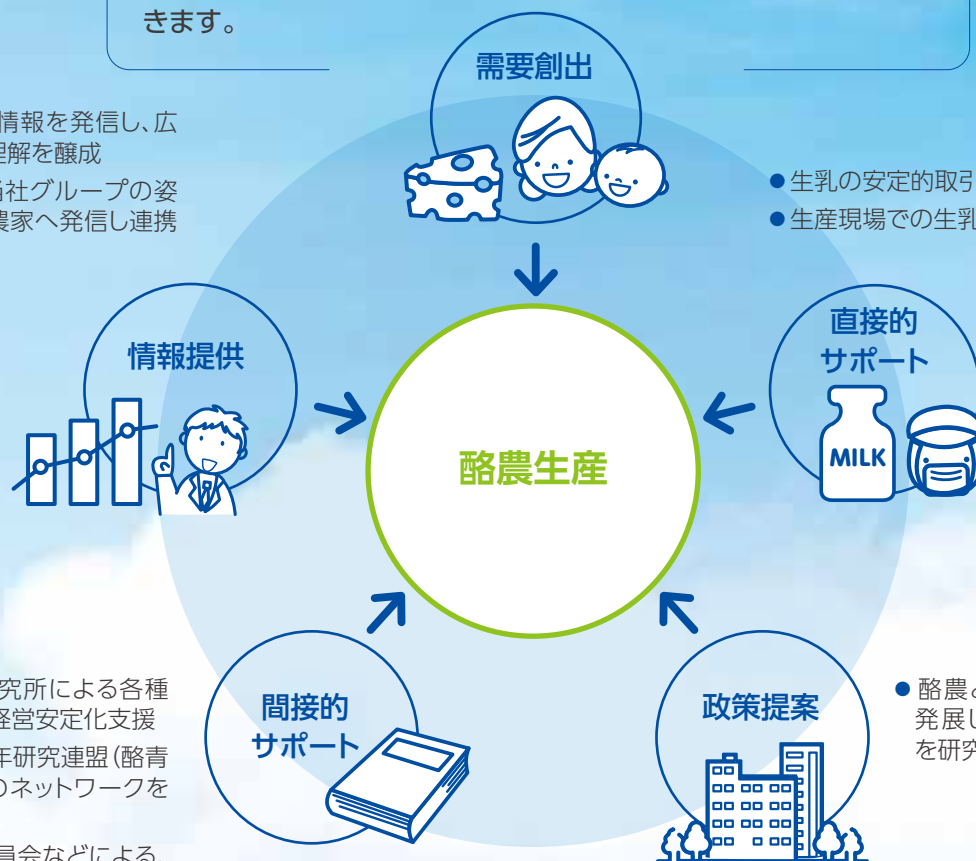
雪印メグミルクグループの酪農生産への貢献

● 新たな需要を創り出します。 ●

雪印メグミルクグループは「未来は、ミルクの中にある。」のコーポレートスローガンのもと、ミルクの価値を最大限に高めて、消費者にお届けし、消費者・酪農家とともに「乳」コミュニティを育んでいきます。

- 生産現場の情報を発信し、広く酪農への理解を醸成
- 市場動向・当社グループの姿勢などを酪農家へ発信し連携を強化

- 生乳の安定的取引と需給調整対応
- 生産現場での生乳品質の維持向上



- 酪農総合研究所による各種技術向上や経営安定化支援
- 日本酪農青年研究連盟（酪青研）の全国のネットワークを支援
- 酪農諮問委員会などによる、酪農・乳業の共存・共栄への協議推進

- 酪農と乳業がともに発展していける施策を研究・提案

▷ 1977～

酪農と乳の歴史館

1977年に落成し、2004年には「北海道遺産」に選定された「雪印史料館」は、2011年4月、新会社のスタートに伴い、「雪印メグミルク 酪農と乳の歴史館」に名称を変更しました。開館以来通算370万人以上の方々を訪れていただきました。



▷ 2009～

酪農諮問委員会

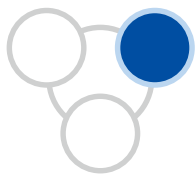
2009年10月の雪印メグミルクの経営統合による発足時から、酪農に関するご意見を広くお聞きする場として酪農諮問委員会を設置、年2回開催しています。

高い見識・豊富な経験を有する有識者委員から、グループの酪農に関わる取り組みや乳業に対する期待などについて、ご意見・ご助言をいただいています。

● 酪農諮問委員会 委員一覧 → P43

酪総研では毎年、酪農・乳業の関係者を対象に、国内外の酪農乳業の諸問題、市場動向、酪農技術および酪農経営などについて、講演および話題提供形式で対応の方向性、問題提起、意見交換などを行なうシンポジウムを開催しています。本年1月の開催で36年目を迎えました。

Web 酪総研ホームページ
http://rakusouken.net/



酪農生産者の方々の想いに応え、 酪農生産にさらに貢献していきます

2012年度「日本酪農研究会」概要

日本酪農青年研究連盟主催「第64回日本酪農研究会」が、昨年11月、茨城県のつくば市で全国の会員酪農家・関係者約300名の参加により開催。今大会は、長い歴史の中でも初めて黒澤西蔵翁*生誕地・茨城県で開催し、記念すべき大会となりました。

酪農経営発表では、全国の代表7名が、独自の低コスト生乳生産や地域特性を活かした飼料自給率向上による経営改善、地産地消や消費者交流などの六次産業への取組みを披露し、酪農経営の多様さと可能性を印象付けました。

また、若手後継者が酪農に対する夢や想いを語った意見・事例発表や、世界の酪農情勢と日本酪農のあり方をテーマとしたシンポジウムによる酪農経営の将来展望の検討など、酪農情勢が厳しい中、参加会員一同が明日への活力を見出した充実した大会でした。

※黒澤西蔵翁：
北海道製酪販売組合連合会(後の雪印乳業)、北海道酪農義塾(現酪農学園大学)の創始者。
提唱する「健土健民」思想により、現在の酪青研が発足しています。



VOICE

日本酪農青年研究連盟 委員長 山本 隆様 談話

私と雪印メグミルクとの関係は大変思い出深いものがあります。幼い頃、集乳を請け負っていた父のトラックに乗せられて雪印の集乳所によく行きました。事務所でおよつをいただいたのを覚えています。今期より日本酪農青年研究連盟の委員長に就任し、中野社長とも意見を交換する立場にあるのは感慨深く、改めて乳業と酪農は車の両輪であるという思いを一段と強くしています。TPP問題、消費税増税など今後、酪農への多大な影響が考えられる現状において、酪青研の財産である人とのつながりをさらに充実させ、地域ごとに酪青研会員がリーダーシップをとり、人材の育成を行なうとともに地域、行政機関や民間団体とのつながり、他農業生産者とのつながり、北海道、都府県など地域を超えた酪農家同士のつながりなど、酪農経営のネットワークの柔軟な構築を進めていくべきだと考えています。自らの強みを充実させ、さらに新たなノウハウをネットワークを通じて活用していく経営こそがこれからの時代を生き抜くカギとなることは間違いのないことです。環境変化の激しい今だからこそ、乳業と酪農家はお互いなくてはならない存在であることを再認識すべきであり、雪印メグミルクの方々にも思い続けてほしいと思っています。



毎日力を合わせて働く
山本さん夫婦



高橋さん一家が経営する
アイスクリームショップ



「第64回 日本酪農研究会」酪農経営発表で 最優秀賞「黒澤賞」を受賞した 高橋まり子様 談話

私たちは「次世代の後継者の育成のために」「地域に親しまれる酪農経営」を理念に牧場経営を行なってまいりました。積極的な酪農教育ファームの実施、女性の農業経営参画のための活動、また酪農に加えた取組みであるアイスクリームショップはその理念と活動が形になったものだと考えています。今回黒澤賞をいただいたことは家族全員の大きな励みとなりました。

今後も「夢」のある酪農経営を目指し、いつも笑顔があふれ、元気いっぱい、次の「夢」に向かって「挑戦」し続けていくつもりです。



近畿中四国ブロックでの研修会



いろいろな形で、グループ企業も酪農生産へ貢献しています

酪農の六次産業化を応援しています — ニチラク機械(株) —

ニチラク機械(株)は、牛乳・乳製品を製造する工場の加工用機械および設備を設計・製造する会社として1954年に設立されました。設立以来雪印グループ、一般食品メーカーおよび農畜産団体に、加工施設の設計・施工や加工用機械の納入をしてきました。

最近では、「六次産業化法」により、農林・水産業者の食品加工・流通販売といった二次・三次産業への進出や、地域資源を活用した新たな産業促進が推進されることになったことから、酪農家の方々が魅力的な商品をつくるための製造機

器技術の情報提供も行なっています。

また、乳業メーカーで長い製造経験を持つ「乳製品加工の匠」ともいえるべき優秀なシニア人材を組織化し、お客様の製造技術の相談に対応できる体制を整えています。2012年度は、小型チーズバットを使用したチーズ研修会を全国8ヶ所で行ないました。

すでに六次産業化事業認定を受け工房が完成しているお客様や、これから六次産業化を行なう酪農家・酪農団体の皆様への協力支援を、今後とも推進していきます。

酪農への理解を深める活動に取り組んでいます — (株)雪印こどもの国牧場 —

神奈川県横浜市にある(株)雪印こどもの国牧場は、「こどもの国協会」から受託し、業務にあたっています。牧場見学や酪農作業の実習などを通して「食と命の関係」を体感していただき、酪農への理解を深めていただく活動に取り組んでいます。

例えば「酪農教育ファーム」では、酪農についての話が聴け、餌やり、乳搾りなどを体験できます。また、「バター・チーズづくり教室」では、酪農、生乳生産、牛乳・乳製品ができるまでを一連の流れで体験することができます。

そのほか大学生や専門学校生を対象にした牧場実習や、中

学生を対象とした職場体験などの受け入れ、近隣中学校などからの要請を受けて、牧場担当者が学校に訪問し酪農に関する講義を行なう「牧場出張授業」なども積極的に行なっています。

雪印こどもの国牧場は1965年に開園し、2015年に50周年を迎えます。これを記念し現在の牛舎を新しく建て替える計画を進めています。これからも多くの方々にご来場いただき、酪農への理解を深めていただけるよう努めていきます。



牛舎でできる乳搾り体験の様子

日本の酪農黎明期から酪農家を支え、酪農を通じて社会全体の豊かさを提案 — 雪印種苗(株) —

雪印種苗(株)はこれまで70年以上の歴史の中で一貫して酪農畜産の発展および酪農経営のための牧草飼料作物種子、配合飼料、農業資材を提供してきた、雪印乳業の種苗部門を前身に持つグループ会社です。

社是であり創業の精神でもある「技術と誠意で農業奉公」は、酪農・農業に貢献する事業活動を通して、社会を豊かにしたいという想いであり、現在まで変わらずに受け継いでいるものです。そのため品質を重視するとともに、健やかな土地づくりが健やかな民を育てるという「健土健民」の理念に代表されるような循環型農業の普及と実践にも取り組んでおり、酪農生産者に密接した企業です。

また創業以来、牧草や飼料用デントコーンなどの育種・商

品開発技術において高いレベルを維持しています。近年は業界全体で力を結集し、食料と飼料の自給率向上を図っています。その中で当社は自給飼料増産を推進するリーディングカンパニーとして、お客様にその技術力やノウハウを積極的に提案しています。



種子脱粒機(1941年操業開始時)

ケレス種
(雪印種苗開発の地下凍結の厳しい寒冷地で栽培可能なアルファルファ(牧草))

雪印メグミルクグループの「消費者重視経営」

私たち雪印メグミルクグループは、消費者基本法に定められた消費者の「8つ」の権利に向き合い、「4つ」の基本姿勢に基づく「7つ」の取組みにより、事業者の責務を果たしていきます。

消費者基本法 (2004年制定)

消費者の『8つ』の権利

- ①国民の消費生活における基本的な需要が満たされ、
- ②その健全な生活環境が確保される中で、
- ③消費者の安全が確保され、
- ④商品及び役務について消費者の自主的かつ合理的な選択の機会が確保され、
- ⑤消費者に対し必要な情報及び
- ⑥教育の機会が提供され、
- ⑦消費者の意見が消費者政策に反映され、
- ⑧並びに消費者に被害が生じた場合には適切かつ迅速に救済されること

(※条文の内容をわかりやすくするために数字を付け表記)

向き合う

事業者の『5つ』の責務

- ①消費者の安全及び消費者との取引における公正を確保すること。
- ②消費者に対し必要な情報を明確かつ平易に提供すること。
- ③消費者との取引に際して、消費者の知識、経験及び財産の状況等に配慮すること。
- ④消費者との間に生じた苦情を適切かつ迅速に処理するために必要な体制の整備等に努め、当該苦情を適切に処理すること。
- ⑤国又は地方公共団体が実施する消費者政策に協力すること。

(※条文のまま表記)

雪印メグミルクグループの『4つ』の姿勢

- 安全で安心していただける商品の提供
- 消費者への情報提供、情報開示
- 消費者の声を傾聴し、経営に反映
- 危機管理体制の整備により迅速、適切に対応

雪印メグミルクグループの『7つ』の取組み

企業倫理委員会

- 品質部会
(社外視点の工場品質監査)
- 消費者部会
(消費者重視経営への意見)
- 表示部会
(消費者視点の商品表示確認)

▶ p34に掲載

品質保証体制の確立

- MSQS^{※1}によるPDCA^{※2}とスパイラルアップ

▶ p14に掲載

危機管理体制の構築

- 商品告知回収体制の確立と運営
- 日次でのお客様センター入電状況定時報告
- 週次でのリスク連絡会による情報共有化

▶ p36に掲載

お客様センター

- 苦情への迅速で適切な対応
- 消費者の声を傾聴
- 「お客様満足向上ミーティング」の開催

▶ p16に掲載

お客様モニター

- 消費者の声を傾聴し、消費者視点での相互理解を進める

▶ p16に掲載

ホームページ運営

- 消費者への情報開示、経営の透明性
- ネガティブ情報も公正に開示

食育・普及

- 食の大切さ、乳の大切さを伝える

▶ p25に掲載

消費者基本法を
根幹とした
消費者重視経営

情報開示

- 活動報告
(CSRの確立に向けて)
- ホームページ

※1 MSQS:
雪印メグミルク品質保証システム(MEGMILK SNOW BRAND Quality Assurance System)。

※2 PDCA:
P(Plan) 目標と実施方法の立案、D(Do) 決めたことの実行、C(Check) 実行した内容の確認と評価、A(Action) 結果を改善していくための措置。



“私のチャレンジ”

ビーンスターク・スノー(株) 高塚 理亜

妊婦さんに役立つ食育活動をしていきます。

「3つの目」による品質チェック ― 雪印メグミルク品質保証システム「MSQS」の仕組み ―

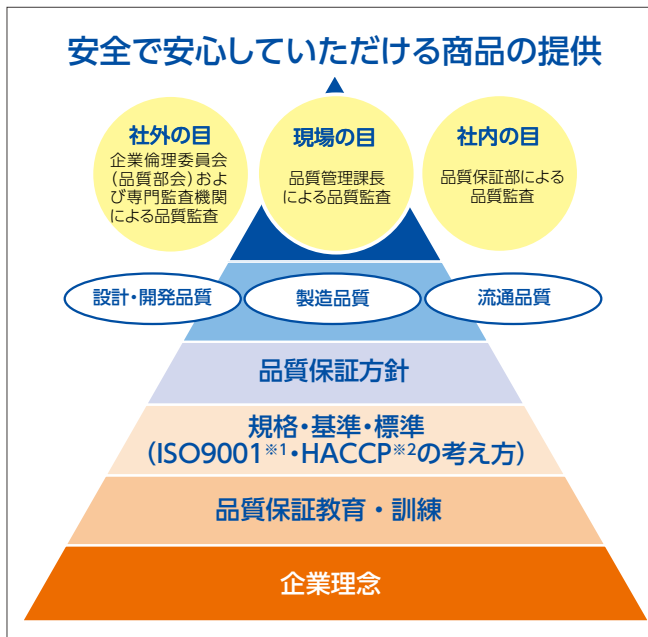
雪印メグミルクは、お客様・消費者の方々へ安全で安心していただける商品を提供していくことはもちろん、お客様・消費者の声を謙虚に聞き、反映することにより消費者重視の経営を実践し、信頼していただける品質の実現を目指します。そのために品質保証方針として、以下の4つの項目を定めています。

雪印メグミルク品質保証システム(MSQS)のもと、お届けする商品の設計・開発から原材料の調達・生産・物流・販売までの過程で品質を管理・保証しています。なお、品質保証システムが適正かつ有効に機能しているかを確認・検証するために、現場、社内、社外の3つの視点でチェックを行なって、品質保証システムを改善し強化しています。

品質保証方針

- ① 消費者を重視した品質保証体制のもと、法令・社内基準を遵守し、安全で安心していただける商品を提供します。
- ② 適切な情報を提供し、消費者の信頼にお応えします。
- ③ 消費者の声を傾聴して、満足していただける品質を追求します。
- ④ 危機管理体制を整備し、迅速、適切に対応します。

雪印メグミルク品質保証システム「MSQS」の概念



組織内で品質保証に取り組むための体制づくりに関する国際規格。

※2 HACCP(Hazard Analysis and Critical Control Point):

入荷から製造・出荷までの全ての工程において、あらかじめ危害を予測し、防止するための重要管理点を特定してそのポイントを継続的に監視・記録し、異常が認められたらすぐに対策を取り解決するシステム。

試験能力の国際規格「ISO/IEC 17025」※1認定項目(微生物)を拡大

― 商品および原材料に関する試験技術の信頼性向上 ―

品質保証部分析センターは、商品の安全性確保のため、原材料や商品の検査・分析を行っており、2002年10月に国内食品会社の試験所として初めて試験所の能力に関する国際規格「ISO/IEC 17025」の内、乳及び乳製品の成分試験の認定を取得しました。

この度新たに、微生物試験について国内乳業会社として初めてとなるISO/IEC17025の認定を2013年2月14日に受けました。このことは、微生物試験能力が国際的に認められたことを意味しており、試験結果の信頼性の向上とともに雪印メグミルクグループ全体の試験技術のレベルアップにもつながるものです。

今後も分析センターは、より一層検査・分析の信頼性向上に努め、商品の安全性確保に取り組んでいきます。

※1 ISO/IEC 17025:

試験所及び校正機関の能力に関する国際規格。試験所に品質システムを運営するマネジメント能力と、適格で妥当な結果を出す技術能力を求めるもの。

※2 公益財団法人 日本適合性認定協会(略称JAB):

「ISO/IEC 17025」を含め、適合性評価全般に関わる国内の認定機関。

認定の内容

認定機関: 公益財団法人 日本適合性認定協会※2

試験所名: 雪印メグミルク株式会社 品質保証部
分析センター(認定番号 RTL01190)

所在地: 埼玉県川越市南台一丁目1番2号

認定範囲:

従来の認定範囲(成分試験)

- 乳及び乳製品中の脂質分析
- 乳及び乳製品中の窒素(たんぱく質)分析
- 乳及び乳製品中の水分分析
- 乳及び乳製品中の灰分分析

拡大された認定範囲(微生物試験)

- 乳及び乳製品中の生菌数
- 乳及び乳製品中の大腸菌群
- 乳及び乳製品中のコアグラールゼ陽性ブドウ球菌
(試験方法は、ISO法及び自動生菌数測定装置TEMPO法)

“私のチャレンジ”

雪印メグミルク(株) 海老名工場 製造一課 大浜 清香

「Keep moving forward!」失敗しても挫けない強い心で仕事にのぞみます。



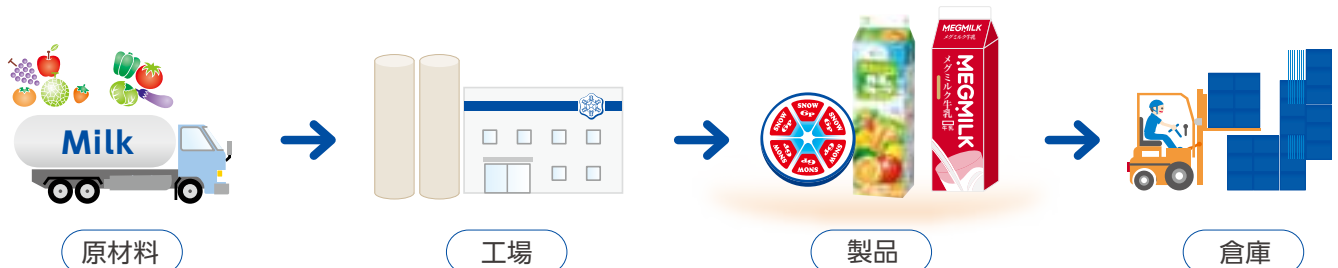
食品の放射性物質に関わる対応について

雪印メグミルクは、お客様に安全で安心していただける製品をお届けするために、放射性物質に関して原材料、工場、製品および倉庫での保管に至る一連の過程で管理すべき重要なポイントを定め、定期的に検査・モニタリングして、国が定める基準値以下であることを確認しています。酪農生産者の方々は乳牛の飼料を厳格に管理しており、また酪農関係者や行政が協力して、原料乳の放射性物質について定期的な検査を実施しています。この検査結果を確認するとともに、右記のモニタリングを実施しています。

モニタリング内容

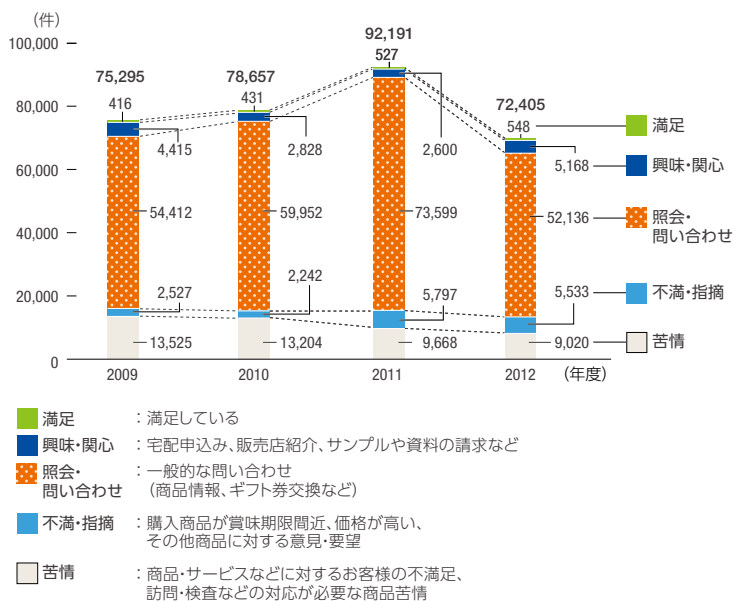
- ① 東北・関東・甲信越地域・静岡県から受け入れた原料乳について、定期的に検査を行ない、基準値以下であることを確認。
- ② 同地域で生産された主要原材料、および工場で使用している用水について、定期的に検査を行ない、基準値以下であることを確認。
- ③ 工場の製造環境(工場敷地、製造室、および資材・製品保管庫の空間線量率)を定期的に検査。
- ④ 工場、関係会社および委託先で製造された代表製品については、定期的に検査を行ない、基準値以下であることを確認。
- ⑤ 主要な製品倉庫での保管環境(敷地および倉庫内の空間線量率)を検査。

当社で管理するポイントを設定



お客様センターの受付件数

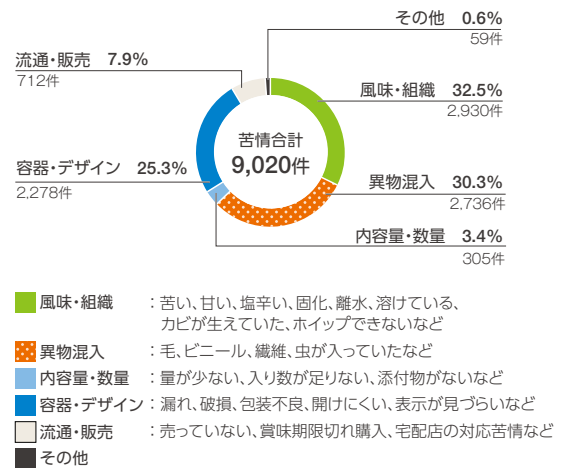
2009～2012年度の受付件数



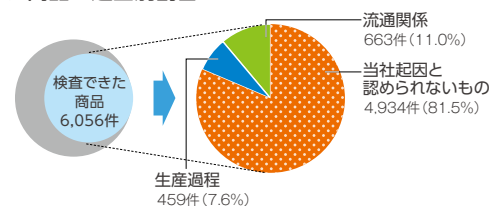
2012年度の主な特徴

- ① 総入電数の減少: 2012年度72,405件。前年に比べ、約21%減少しました。
- ② 減少理由: 昨年度は東日本大震災関連の入電(商品が売られていない、放射性物質検査、原産地問い合わせなど)が多くありましたが、本年度はこれらの入電が大幅に減少したためです。
※興味・関心の入電が増加していますが、これは「取扱店紹介」の分類を移行したためです。

2012年度の受付件数の中での「苦情」の内訳



お客様苦情のうち、ご協力をいただいて検査ができた商品の起因別割合



2012年度の苦情件数9,020件のうち、ご協力を得られた6,056件について検査を実施しました。その検査結果から、起因の推定を行ない、商品の設計や製造工程の改善に役立てています。

“私のチャレンジ”

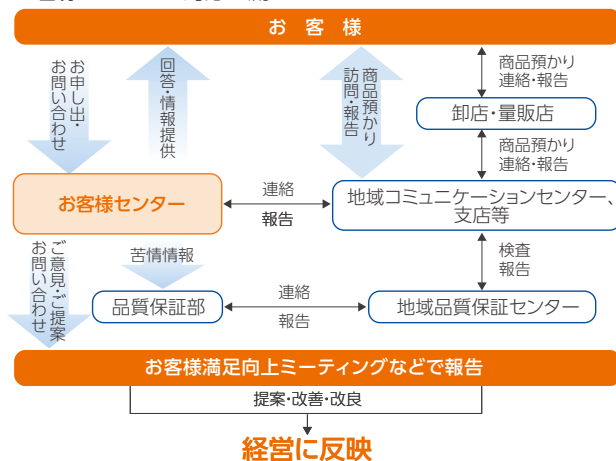
雪印メグミルク(株) 豊橋工場 総務課 高岡 浩太

みんなから愛され、みんなから頼りにされる存在になれるようがんばります！

お客様のお申し出に迅速かつ適切にお応えするために — お客様センター —

雪印メグミルクグループでは、お客様の声をお受けする「お客様センター」を開設し、電話・メール・手紙などでのお問い合わせに年中無休で「正確・迅速・丁寧」に対応していくことを第一に考えています。いただきました貴重なご意見は、担当部署へ伝達し、より良い商品の提供へ役立てています。商品検査が必要なお申し出をいただいたときは、社内の関係部署と連携して検査を実施し、お客様に迅速なご報告を行なっています。

お客様センターの対応の流れ



お客様の声を傾聴し商品・サービスに活かします — お客様満足向上ミーティング —

お客様の声を活かした商品の改良・改善を目的として、雪印メグミルクでは「お客様満足向上ミーティング」を開催しています。

お客様から寄せられたご意見・ご要望の中で数の多かったものを中心に、「お客様満足向上ミーティング」にて関係部署間の協議

を行ない、2012年度は改善を決定したものが41件となりました。その結果についてはホームページなどでお知らせしています。

また、「お客様満足向上ミーティング」の内容は「企業倫理委員会」「取締役会」で報告しています。

● お客様センターに寄せられたお客様の声を商品改良に反映させました。その一例をご紹介します。

● 雪印 ショートニング

「ホームベーカリーにも使えるか分かりにくい」という声にお応えし、パッケージの正面にアイコンを入れました。



旧商品



新商品



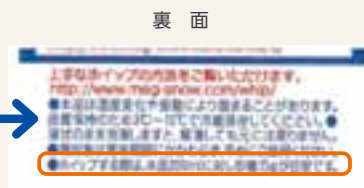
パッケージの正面にアイコンを追加

● ホイップ各種

「ホイップする際の砂糖の分量が書いてないので不便」という声にお応えし、分量を表示しました。



当社ホームページでもご紹介しています
<http://www.meg-snow.com/customer/center/voice/>



裏面

お客様の声を社内に伝えています — お客様モニター制度 —

「お客様モニター制度」は、応募者の中から選出された関東圏、関西圏のモニターの皆様に工場見学や牧場での酪農体験、グループディスカッションなどを通して、雪印メグミルクグループの企業活動を理解していただいています。また活動の中で出されたご意見を企業活動に反映させています。

昨年は「同窓会」も開催し、90名のモニターOBの皆様(雪印メグミルク以前を含む)にご参加いただき、今日までの雪印メグミルクグループの活動に対する貴重



モニターOBの皆様が一堂に会し、活発なグループ討議を行いました

なご意見をいただきました。今後もCSR経営の実践を担う取り組みの1つとして実りのある活動を行なっていきます。



モニターの活動を通し、社員の皆様の商品への熱意や真摯な姿勢を知り、改めて貴社のファンとなりました。

お客様モニターの声
種井 和子 さん



普段の業務では関われない、モニターの皆様や他部署スタッフと時間を共有し学べたことは宝物になりました!

雪印メグミルク(株) 営業推進部 市乳営業推進グループ
高木 佑子

“私のチャレンジ”

雪印メグミルク(株) 関西チーズ工場 製造課 吉武 伸晃(左)・宮内 絵理(右)

立派な製造マン・製造ウーマンになれるように、ミルクの可能性とともに自分達の可能性を引き出します!!



乳(ミルク)にこだわる

雪印メグミルクグループの「乳(ミルク)にこだわる」

私たち雪印メグミルクグループは、コーポレートスローガン「未来は、ミルクの中にある。」に基づき、ミルクの機能を中心として、「おいしさ」と「健康機能」の追求を軸とした研究を行なっています。

「おいしさ」に関する研究

- チーズのおいしさ(風味、食感)の研究を進め、「雪印 こんがり焼ける ところけるスライス」が食品産業新聞社主催の「第42回食品産業技術功労賞 技術・アイデア部門」ならびに日本食糧新聞社が制定する「第26回新技術・食品開発賞」を受賞しました。
- 製法の違いでモッツアレラチーズの弾力などの物性が異なるメカニズムを明らかにし、品質の安定化に貢献しました。
- プロセスチーズの乳化条件が、硬さなどの物性に与える影響について新たな知見を得ました。この成果を、より好ましい食感を有する商品の提供につなげていきます。
- ファットスプレッドやマーガリンなどにおいて、保存中のなめらかさなどの食感劣化のメカニズムに関する知見を新たに見出しました。この知見を口どけが良く、おいしい商品の開発につなげていきます。

「健康機能」に関する研究

- ガセリ菌SP株、ビフィズス菌SP株の健康機能やその作用メカニズムについて新たな知見を得ました。
 - 北海道大学遺伝子病制御研究所に開設した寄附講座「プロバイオティクス・イムノロジー研究部門」にて得られた成果として、ガセリ菌SP株の抗インフルエンザ作用を学会で報告しました。*
 - ガセリ菌SP株、ビフィズス菌SP株を用いたヨーグルトをボランティア224名に対し、ヒト摂取試験を実施し、これら2つのプロバイオティクス菌が、免疫力の向上、ストレス軽減の効果をもつことを学会で報告しました。*
 - ガセリ菌SP株の摂取によって食後の血中脂質濃度が下がることが、内臓脂肪蓄積抑制効果の作用メカニズムであることを明らかにしました。
- 独自の機能性素材である乳塩基性タンパク質(MBP®)、ミルクセラミドMC-5の機能性や作用メカニズムについて研究を進めました。
 - 乳由来機能性素材である乳塩基性タンパク質(MBP®)は宇宙での生活や寝たきりなどの非荷重状態における骨密度低下を抑制することを見出しました。
 - アトピー性皮膚炎モデルマウスに対するミルクセラミドMC-5の作用を調べ、アトピー性皮膚炎を抑制する可能性を見出しました。

*研究成果の発表記事を参照

研究成果の発表

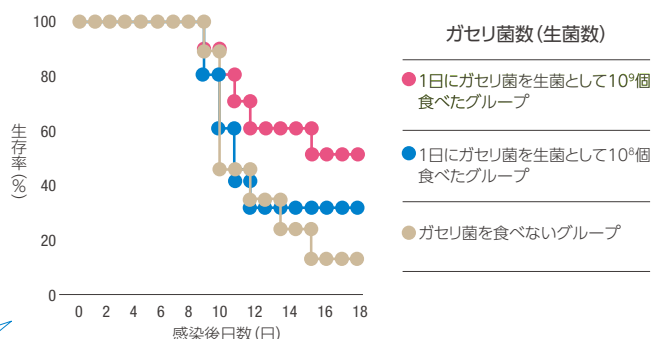
●ガセリ菌SP株のA型インフルエンザウイルスに対する感染予防効果

ガセリ菌SP株には、整腸作用をはじめとして内臓脂肪蓄積抑制作用や抗炎症作用などの生理機能のあることが、これまでの研究から明らかになっています。今回、北海道大学遺伝子病制御研究所内に当社が寄附講座として開設したプロバイオティクス※1・イムノロジー※2研究部門にてさらに研究を進めた結果、A型インフルエンザウイルスに対する感染予防効果が動物試験で明らかとなり、「第41回日本免疫学会学術集会」で発表しました。

研究結果

感染1週間前からガセリ菌SP株を投与したところ、マウスの生存率が向上しました。その効果は与えた菌数が多いほど大きいことがわかりました。

インフルエンザ感染マウスの生存率



※1 プロバイオティクス:

摂取することにより、有益な効果をもたらす生きた微生物のこと。

※2 イムノロジー:

免疫学。高等動物における生物学的自己性を確立・保全する生体反応に関する学問領域。

“私のチャレンジ”

雪印メグミルク(株) 厚木マーガリン工場 製造課 堀切 学(左)・小田原 清史(右)

互いに切磋琢磨して、おいしいマーガリンを作ります。

●2種類のプロバイオティクス乳酸菌を含むヨーグルトのヒト試験結果を発表

224名のボランティアを対象としたヒト摂取試験で、ガセリ菌SP株とビフィズス菌SP株の2種類のプロバイオティクス乳酸菌を含むヨーグルトを1日100g、12週間摂取した結果、2種類のプロバイオティクス乳酸菌を含まないヨーグルトに比べて、免疫力の向上やストレス軽減効果が明らかになりました。この研究成果を北海道情報大学と共同で、「2012年国際機能性食品学会」で発表しました。

本研究の成果は乳酸菌の新たな健康機能研究の端緒となるものと考えています。

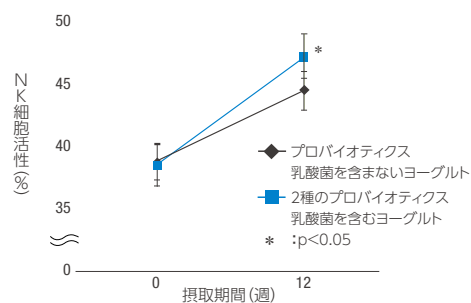
研究結果

免疫活性化の指標であるNK細胞活性が有意に上昇し、ストレスホルモン(ACTH*)は有意に減少することが明らかになりました。

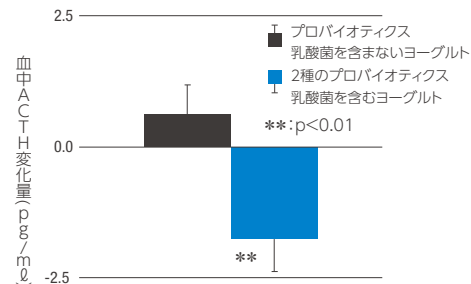
※ ACTH(副腎皮質刺激ホルモン):

脳下垂体から分泌されるホルモンの一つで、ストレスにより分泌が上昇する。

NK細胞活性



ストレスホルモン変化量



各種受賞について

●日本食糧新聞「第31回食品ヒット大賞、第26回新技術・食品開発賞」受賞

●食品産業新聞「第42回食品産業技術功労賞 技術・アイディア部門」受賞

日本食糧新聞社が制定する「第31回食品ヒット大賞」において、「雪印北海道100 カマンベールチーズ」がロングセラー特別賞を、「雪印 こんがり焼ける とろけるスライス」が「第26回新技術・食品開発賞」をそれぞれ受賞しました。また、「雪印 こんがり焼ける とろけるスライス」は食品産業新

聞社が主催する「第42回食品産業技術功労賞 技術・アイディア部門」も受賞しました。

これからも「乳(ミルク)の新しい価値」の創造に積極的に挑戦し、長くご愛顧いただける商品をお届けしていきます。

弘前大学寄附講座「ソーシャルヘルスマネジメント学講座」の開設

日本は超高齢化社会を迎えており、シニアのQOL (Quality of life: 生活の質) 向上や医療費の抑制が喫緊の課題です。これに対し、シニアの健康への意識を高め、それに応じた予防医学的取組みを継続してもらうことが重要であると考えられています。

このような背景を踏まえ、2012年11月1日より弘前大学大学院医学研究科に寄附講座「ソーシャルヘルスマネジメント学講座」を開設し、雪印メグミルクの食に関する知見と弘前大学の健康に関する知見を活用し、健康のための運動

方法や食生活改善方法などについての調査・研究、および健康を維持・向上させる仕組みの検討を行なっています。

この寄附講座は、弘前大学大学院医学研究科長 中路重之教授をはじめとする4人の先生が担当されており、当社からもスタッフを派遣し、共同で研究を行なっています。

中路教授(右から二人目)を中心に、健康のための運動や食事について調査・研究をしています



当社商品を使用したスイーツレシピ本の発行

牛乳・乳製品を使った夏向けの冷たいスイーツレシピ本「雪印メグミルクのヨーグルト・牛乳・チーズで作るひんやりスイーツ」を(株)ブティック社より発行しました。

このスイーツレシピ本は、より多くの方に乳(ミルク)のおいしさを知っていただきたいとの思いから、雪印メグミルクの社員がレシピを考案しました。特に夏にぴったりの冷たいスイーツ全49レシピを紹介しています。牛乳はもちろん、今話題の水切りヨーグルトやチーズを使った様々なレシピ

で、牛乳・乳製品のおいしさが堪能できるデザートを作ることができます。

また、ヨーグルトや牛乳にちょっと意外な食材を“ちょい足し”したドリンクやデザートを簡単に試してみることができ、牛乳・乳製品の豆知識もご紹介していますので読むだけでも楽しく役立つ内容になっています。



発行元のブティック社ホームページから購入できるほか、一般の書店でもご購入いただけます



地球環境保全への取り組み

雪印メグミルクグループは、自然の恵みから生まれるミルクを中心とした事業活動を行なう上で、大切な地球環境を次世代に引き継ぐために、グループ全体で環境保全活動を推進しています。

環境マネジメントの推進

雪印メグミルクは、事業活動に伴う環境への影響だけではなく、社会に与える影響も考慮しながら、環境と経営が調和した環境保全活動への取り組みを積極的に行なっています。

環境方針

雪印メグミルクは、「法令の遵守」「環境への配慮」「環境意識の向上」「環境情報の開示」の4項目を環境保全活動の基盤として、環境負荷低減の取り組みや環境意識の向上を推進し、社会的責任を果たしていきます。

環境マネジメント体制

雪印メグミルクの環境マネジメントは、環境保全活動の最高責任者である社長をトップに、環境担当役員が環境統括責任者として環境マネジメントシステム(EMS^{※1})の総合管理を行なっています。また、各部門には環境管理責任者を置くことで、ISO14001^{※2}に準拠したEMSを推進しています。

※1 EMS:
Environmental Management Systemの略。

※2 ISO14001:
組織内で環境保全に取り組むための体制作りに関する国際規格。



全社環境会議

雪印メグミルク環境方針

私たちは、「雪印メグミルク行動基準」に則り、環境マネジメントシステムを構築し、環境負荷低減を図ります。そして、自然の恵みから生まれるミルクを中心とした事業活動と地球環境の共生に努めます。

1. 法令の遵守

環境法令・条例等を遵守し、法改正等に迅速に対応します。

2. 環境への配慮

省エネルギーと廃棄物の適正管理を実施し、継続的に改善します。

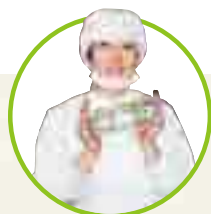
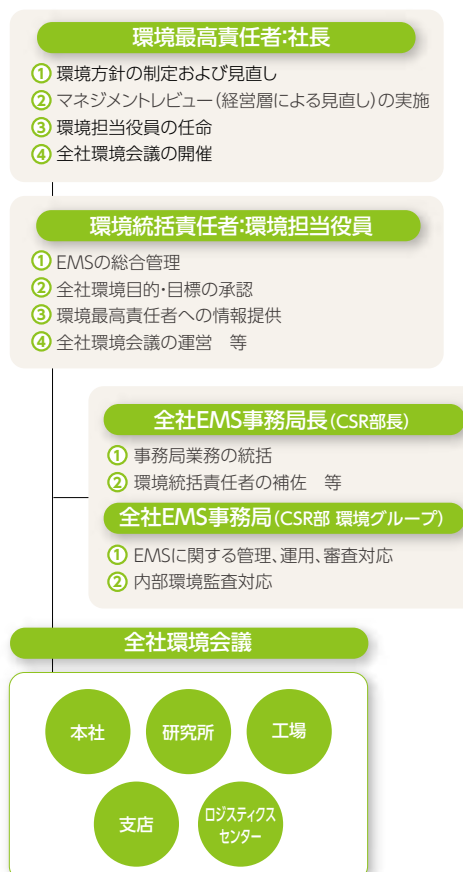
3. 環境意識の向上

一人ひとりが環境保全に対する自覚を持つとともに、環境教育を積極的に推進します。

4. 環境情報の開示

環境情報を積極的に開示し、透明性のある環境保全活動に努めます。

環境マネジメント体制図



“私のチャレンジ”

雪印メグミルク(株) 福岡工場 製造二課 杉山 愛

明るい挨拶と意欲的な行動を心がけ、どんな仕事にも全力で取り組みたい!

環境監査

2012年度の内部環境監査は、社内資格を有する監査員がチームを組み、本社、支店、研究所、工場全ての部署に対して実施しました。内部環境監査にて発見された指摘事項や課題を迅速に改善に結びつけることで、環境マネジメントシステムを円滑に運用しています。



名古屋工場 内部環境監査

環境教育

雪印メグミルクでは、イントラネットなどを活用した環境教育を全社にて実施しています。また、ISO14001の理解を深め、内部環境監査ができるスキルを持つ人材の育成を目的とした内部環境監査員養成研修を実施しています。



札幌工場 内部環境監査員養成研修

環境法令の遵守

雪印メグミルクでは、環境関連法規の逸脱防止のため、本社、支店、研究所、工場全ての部署に関わる環境法規を環境マネジメント規程・要領に定めた様式「事業活動と環境法規関連表」に抽出・特定し遵守評価を行なっています。また工場、研究所などの様々な緊急事態についても抽出と評価を行なっています。

各部署に関わる環境関連法規を上記様式にて特定し評価しています

環境リスク低減への取り組み — いばらく乳業(株) —

緊急事態への対応

当社グループのいばらく乳業(株)では、緊急事態を想定した対応訓練を実施しています。2012年度は、生乳や原料の流出などを想定した訓練を行ない、環境リスクの低減に向けた取り組みを推進しています。



乳原料の流出を想定した訓練の様子



“私のチャレンジ”

雪印メグミルク(株) 豊橋工場 堀高 尚貴

計画的に効率良く作業を行なうことで余裕を作り、職場や作業内容の理解を深めたい。



地球温暖化防止と循環型社会構築への取組み

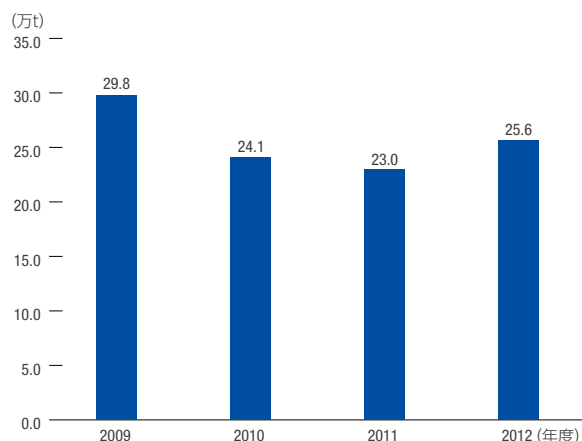
雪印メグミルクは、環境保全をCSRの基盤となる取組みとして捉え、地球温暖化の原因であるCO₂排出量の削減や循環型社会構築に向けた廃棄物の発生抑制やリサイクルの取組みを推進しています。

CO₂排出量とエネルギー使用量の推移

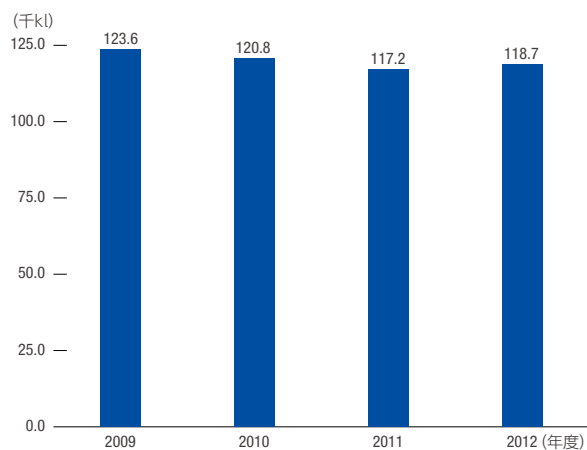
雪印メグミルクでは、工場の生産体制の整備や重油からガスへの置換などの取組みを積極的に推進し、支店・研究所においては、空調温度の適正管理やノー残業デーなどの省エネルギー活動に積極的に取り組んでいます。

2012年度もエネルギー使用の効率化を推進しましたが、乳製品などの生産物量の増加や工場の増設に伴うエネルギーの増加などにより、CO₂排出量・エネルギー使用量ともに前年度より増加しました。2013年度は、さらに省エネルギー活動の推進を行なっていきます。

CO₂排出量



エネルギー使用量(原油換算)

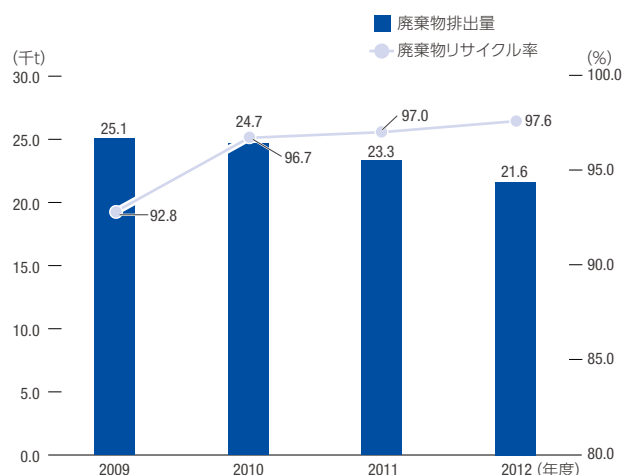


廃棄物・食品廃棄物の排出量とリサイクル率の推移

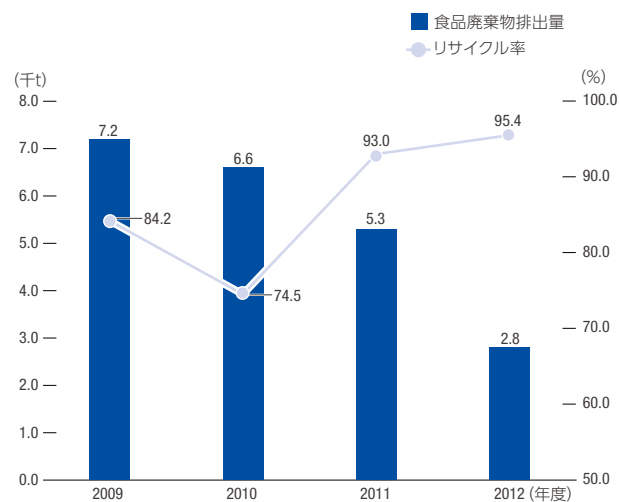
雪印メグミルクの2012年度の廃棄物排出量は、工場・物流部門の食品廃棄物、汚泥削減などの取組みによって、前年度より減少しました。また、廃棄物リサイクル率は向上しました。

食品廃棄物についても、昨年度より排出量は減少し、リサイクル率は向上しています。

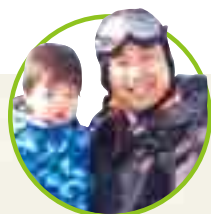
廃棄物排出量と廃棄物リサイクル率



食品廃棄物排出量とリサイクル率



※工場、支店、研究所計



“私のチャレンジ”

ビーンスターク・スノー(株) 西日本統括支店 中部第一課 与風 純

息子には頼もしいパパ、妻には優しい旦那、会社では仕事ができる男。そう、なりたい。

事業活動と環境影響

雪印メグミルクでは、事業活動に伴う環境負荷状況を把握し、エネルギーや水、原材料、包装材料などの資源を効率的に利用する取り組みを推進しています。

マテリアルフロー

INPUT (事業活動に使用する資源・エネルギー)



事業活動



OUTPUT (事業活動に伴い発生する排出物)



“私のチャレンジ”

雪印メグミルク(株)海老名工場 総務課 福田 晋太郎(左から2人目)
チームワークが大きな武器の海老名工場。これまでも、そしてこれからも、全員で走り続けます！



雪印メグミルクグループの環境保全活動

CO₂削減の取組み(工場)

—大樹工場さけるチーズ新製造棟 排熱回収設備—

蒸気を使用する殺菌機などの各種熱交換器の蒸気ドレン※は、従来、廃棄されていましたが、さけるチーズ新製造棟では、ドレンタンクに全量回収(排熱回収)しています。回収された蒸気ドレン(約85℃)は、機器洗浄用濯ぎ水の加温用熱源や融雪用のロードヒーティングの熱源として有効に利用し、省エネと構内の安全確保に貢献しています。

※蒸気ドレン:

蒸気を加熱に使用した後に蒸気の水分が集まったもの。



ロードヒーティング用
排熱回収設備



回収水用熱交換プレート



融雪用ロードヒーティング設備(歩道下)

物流部門における生産・販売部門一丸となった 廃棄物削減への取組み

物流部門を担当するロジスティクス部の広域物流グループでは、毎週1回専任のアナリストが、営業および生産の担当部署を交えた調整会議を行ない、品切れや過剰生産を避けるよう、在庫の適正化を図る活動をしています。

外部環境の急激な変化や、見込みの変動などに迅速に対応することは易しいことではありませんが、2014年度中に新たな拠点となる阿見工場(乳製品統合工場・茨城県阿見町)の稼動に向けて、この活動をさらに発展させて、需要見込の精度を高め、最適な時期に最適な量の生産をすることができるよう取り組んでいきます。

この取組みのさらなる強化により、製品廃棄物量の減少につながっていきます。



工場製造品はトラックで倉庫へ



フォークリフトで慎重に収納



整然と保管される当社製品



“私のチャレンジ”

雪印メグミルク(株)九州統括支店 牧野 孝夫

定年を前に体脂肪率20%を目指します！

Topics 海老名工場新製造棟の環境設備

LED照明使用による環境負荷低減

従来は蛍光灯や水銀灯などを使用していましたが、新製造棟では全ての照明をLED照明にしました。また通路・階段等に人感センサーを設置し必要な時のみ点灯するようにしました。

これらの取り組みにより年間約276tのCO₂排出量を削減することができる見込みです。



照明をLED照明に切り替えた製造室

受電設備更新による環境負荷低減

新製造棟建設に伴い受電設備の更新を行ないました。これまでの設備では六ふっ化硫黄という絶縁ガスを使用し、電気を遮断していましたが、乾燥空気で遮断できる機器を導入しました。

六ふっ化硫黄ガスは、地球温暖化係数がCO₂の23,900倍で、温室効果ガスの中でも一番高い係数のガスです。



温室効果ガスを使用しない受電設備に更新

ガラパゴスによるコンクリートの再利用

海老名工場では第二新製造棟の建設に伴い旧製造棟の取り壊しが必要となりました。工場棟を取り壊すと大量の建設廃棄物が発生します。この建設廃棄物を削減するためにコンクリートを再利用する取り組みを行ないました。取り壊しで出るコンクリートは鉄骨などの異物が入っているため、まずこれを選別機で取り除き、その後ガラパゴスというコンクリート粉砕機で粉砕したコンクリートを新製造棟の砕石^{*}として使用しました。

この取り組みにより約6,000m³の建設廃棄物を削減することができました。

※砕石(さいせき):

岩石などを人工的に小さく砕き、道路用骨材やコンクリート用骨材などの土木・建築用資材に適した粒度に加工したもの。

①



旧製造棟の取り壊しで発生したコンクリート廃材を、

②



ガラパゴス(コンクリート粉砕機)で粉砕し、

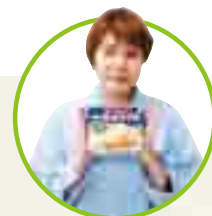
③



粉砕したコンクリートを新製造棟の砕石として再利用しました。

“私のチャレンジ”

雪印メグミルク(株) 厚木マーガリン工場 製造課 遠藤 菜侑
新しい作業にも積極的にチャレンジし、阿見の新工場での戦力になれるよう頑張ります！



乳(ミルク)を通した社会貢献

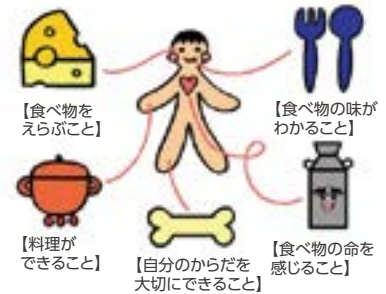
乳(ミルク)からもたらされる力を「食の大切さと尊さ」につなげ、笑顔あふれる食生活を応援していきます。
また乳(ミルク)を通したコミュニケーションを大切にすることで、社会からの要請にも的確に応えていきます。

健康で笑顔あふれる生活のために

雪印メグミルクでは、消費者重視経営の7つの取組みの1つとして、食育・普及活動「乳の食育 雪印メグミルク 食コミュニティ」を展開しています。「食の大切さと尊さ」「牛乳・乳製品の価値」を子どもたちやお客様・消費者にお伝えし、「食」を通して人々の健康で笑顔あふれる生活を応援します。

「食の大切さと尊さ」を学ぶ5つの大切なポイント

食育は、栄養に関する知識だけを学ぶことではありません。豊かな自然からいただく命の恵みの尊さを感じ、それを五感で味わう感性を養うため「食の大切さと尊さ」を学ぶことです。雪印メグミルクは、そのために右の5つが大切なポイントであると考えています。



「乳の食育」を通して伝えたいこと

食の大切さと尊さ

- ① 食べることは私たちにとって極めて大切であり、特にバランスのよい食事を摂り、自分の身体を大切にすること。
- ② 食べものは自然の恩恵を受けた尊い資源であること。すべての食べものは自然からの恩恵であり、ほかの生き物の尊い命をいただいて、自分たちの生をつないでいること。

牛乳・乳製品の価値

- ① 牛乳・乳製品は、日本人に不足しているカルシウムを効果的に補う食品である。
- ② 牛乳・乳製品は「豊かな栄養価」や「おいしさ」を持ち、消費者の方々の豊かな食生活や健康づくりに貢献することができる食べものである。
- ③ 牛乳・乳製品は、乳牛の「命の恵み」を原料として「牧場(酪農)」や「工場(製造工程、品質管理)」などの現場を経て消費者に届けられ、そこに携わる人々によって大切に作られた食べものである。

牛乳の大切さを知ろう — 小中学校への出前授業 —

雪印メグミルクでは、食育活動の一環として、小中学校への食育出前授業を行なっています。成長期における牛乳・乳製品摂取の大切さや命の恵みへの感謝の気持ちを知ってもらうお手伝いをしています。

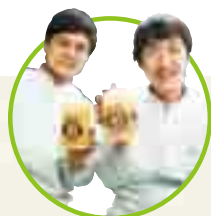
2012年度は全国の小中学校243校、584クラス、22,781名の生徒・保護者などを対象に行ないました。

Web

食育出前授業 実施校一覧

<http://www.meg-snow.com/csr/syokuiku/class/list.html>


お子様にもわかりやすく牛乳・乳製品の大切さをお伝えします



“私のチャレンジ”

雪印メグミルク(株) 神戸工場 市乳製造課 末富 和弘(左)・久保 森(右)

昨年よりも今年、今年よりも来年、と成長し続ける！責任を持って、挑戦します。

牛乳・乳製品のおいしさと楽しさをご紹介 — 料理講習会 —

親子料理教室やPTA行事など、様々な方を対象に牛乳・乳製品を使った料理講習を行なっています。

実習に加え、お子様の成長に欠かせない大切なカルシウムたっぷりのメニューの紹介、牛乳・乳製品が持つおいしさや健康に関する機能と役割、最新の栄養情報などをわかりやすくお伝えしています。

2012年度は全国で6,463名の方にご参加いただきました。



料理講習会のお申し込み

<http://www.meg-snow.com/csr/syokuiku/cooking.html>



おいしい料理を作りながら、親子の会話がはずみます

牛乳・乳製品の魅力を学ぶ — 各種セミナー —

牛乳・乳製品には、おいしさや栄養、健康、文化・歴史に関して様々な魅力があります。雪印メグミルクでは、主婦や働く女性、学生などを対象として「牛乳・乳製品セミナー」をはじめ、「チーズセミナー」や「ヨーグルトセミナー」、「骨・カルシウムセミナー」など様々なセミナーを開催し、その魅力をお伝えしています。

2012年度は全国で16,089名の方にご参加いただきました。



セミナーのお申し込み

<http://www.meg-snow.com/csr/syokuiku/h-seminar.html>



熱心に話に聴き入る参加者の皆さん

特定のアミノ酸の制限が必要なお子様のために — 特殊ミルクの製造と供給 —

特殊ミルクは生まれながらにして、アミノ酸などの代謝が十分にできないお子様たちのための粉ミルクです。雪印メグミルクでは前身の雪印乳業の時代を含め、50年前から特殊ミルクの製造を行なってきました。埼玉県川越市にあるミルクサイエンス研究所では39年前より製造を行なっています。

雪印メグミルクでは、特殊ミルクの安定供給を一層強固なものとするために、今回、新医薬品工場をミルクサイエンス研究所敷地内に建設しました。2011年6月に着工し、2013年1月より製造を開始しました。

新医薬品工場はのべ床面積665m²で従来の製造室の2倍の広さです。大部分の設備・機器を更新し、さらに、空調管理と清浄度による区分けを一層充実することで、より安定的に生産できるようにしました。

引き続き、厳格な品質管理のもと、患者様が特殊ミルクを用いた食事療法を安心して続けられるように取り組んでいきます。



特殊ミルクの安定供給のため建設した新医薬品工場の竣工式



“私のチャレンジ”

雪印メグミルク(株) 福岡工場 製造一課 日高 暢紘

昨年度よりも成長できるように、様々なことに関心をもって仕事に取り組めます。



地域・社会への取組み

乳(ミルク)を通した社会貢献とともに、「良き企業市民」として地域の方々とコミュニケーションを図り、その期待に応えていくことのできる社会貢献活動を推進しています。

スポーツを通した次世代育成

ジャンプ大会の協賛を通してスポーツ振興に貢献

雪印メグミルクでは、スキー部の活動と各種スキージャンプ大会への協賛を通してウィンタースポーツの振興に貢献しています。若手ジャンパーの登竜門とされている「雪印メグミルク杯 全日本ジャンプ大会」(毎年1月開催)では男女中学生を対象に「特別奨励賞」を贈呈しています。さらに、小中学生のジュニアジャンパーの活躍の場を増やすために2011年より「雪印メグミルク杯 ジュニアサマージャンプ大会」に協賛しています。これまでも、オリンピック金メダリストであるスキー部斉藤浩哉監督や原田雅彦コーチらが子どもたちへの指導をお手伝い

しています。これらの大会に協賛することで、より多くのジュニアジャンパーを応援していきます。



将来の活躍を期待しています



それいけ! 若手ジャンパー!

文化振興

雪印メグミルク夏休みファミリーミュージカルを開催

子どもたちの体の健康だけではなく、健全な心の成長を願って実施している活動として、「雪印メグミルク夏休みファミリーミュージカル」を開催しています。2012年も8月にメルパルク大阪で開催しました。ファミリーコンサートとオリジナルミュージカルの2部構成で、出演者と子どもたちが一体となる夢と感動のステージで、夏休みの一日を親子で楽しく過ごしていただきました。また、CMでおなじみの「ガセリ菌太郎」も登場し、子どもたちの人気を集めました。



来場者と記念写真! ハイ、チーズ!



楽しいステージで夢と感動をお届けしました

地域・社会への取組み活動一覧

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
スポーツを通した次世代育成		第25回サッカーマガジン雪印メグミルクカップ全国レディース大会協賛 →P28	第29回富里スイカロードレース協賛	- 雪印メグミルク杯少年野球大会開催(横浜チーズ工場) - 雪印メグミルク杯少年野球大会・小学生バレーボール大会開催(別海工場)	第2回雪印メグミルク杯ジュニアサマージャンプ大会協賛 →P27	第30回雪印メグミルクカップ京都少年サッカー支部選抜大会協賛	
地域社会との共生		- 北海道庁赤れんが庁舎前庭に花壇を設置 - 札幌市役所前「おもてなし花壇」の設置	- 北海道景観づくりサポート企業に登録 - YOSAKOIソーラン祭りジュニア大会協賛	- ホッカイドウ競馬協賛 →P29 - 大樹工場で工場開放デー開催 - 円山動物園オフィシャルショップにてSAPPORO MARUYAMA ZOO CHEESEの発売	- ホッカイドウ競馬協賛 →P29 2012サイエンスパークへの参加	- こどものまち「ミニさっぽろ」に参加 「北海道ナチュラルチーズ製造レベルアップ研修会」基礎研修開催 →P30	
食に対する教育機会の提供		- 牛乳まつり開催 - 道内高校生向け出前授業実施(合計45回)			サッポロさとらんど・牛乳たっぷり親子クッキング協賛		
文化振興			食育推進全国大会に出展(横浜みなとみらい)		夏休みファミリーミュージカル開催 →P27		



“私のチャレンジ”

雪印メグミルク(株)豊橋工場 製造二課 大元 裕貴

安全で安心していただける商品をお届けするため、頼れる技術者になります!

スポーツを通じた次世代育成

第25回サッカーマガジン雪印メグミルクカップ全国レディース大会に協賛

雪印メグミルクは「サッカーマガジン雪印メグミルクカップ全国レディース大会」に協賛し、女子サッカーの振興を応援しています。この大会は女子サッカーとしては国内最大級の規模で、社会人のクラブチームや中学、高校、大学の強豪チームが集います。これまで、なでしこジャパンの選手を数多く輩出するなど、日本女子サッカーのレベルアップに貢献してきました。

通算で第25回となる2012年度の大会は、5月3日～5日の3日間、長野県上田市の菅平高原で開催されました。全国から108チームが参加し熱戦が繰り広げられ、順天堂大学インプレシオーネが優勝しました。

将来、参加者の中から、オリンピックやワールドカップで活躍する選手が出てくることを期待しています。



すべての試合で熱戦が繰り広げられました



見事優勝を果たした順天堂大学インプレシオーネの皆さん

食に対する教育機会の提供

こどもの国 牧場まつりを開催

雪印こどもの国牧場では、毎年11月に「こどもの国牧場まつり」を開催しており、今回で45回目を迎えました。乳搾りやバター作り教室、干草投げ競争、牛の削蹄ショーなど牧場ならではの楽しいイベントが行なわれました。雪印メグミルクは、牛乳をテーマにしたオリジナル紙しばいと食育教室や、牛乳、チーズやヨーグルトの試飲・試食で協力し、雪印種苗も牛のえさの紹介や野菜の種の配布で参加しました。2日間で10,000名を超えるお客様が来園し、各種イベントを楽しみました。



削蹄ショーをこんな間近でご覧いただけます



牛や酪農に関するジャンボカルタとりゲームは子どもたちに大人気でした

10月	11月	12月	1月	2月	3月
- 北海道農政事務所が主催する「食を学ぶ!なるほど講座」を札幌工場及び酪農と乳の歴史館にて開催 - 東京都赤十字血液センターによる献血(東京本社)を実施	「北海道ナチュラルチーズ製造レベルアップ研修」製造実習開催 →P30 - 第5回北海道のうまいもの見つけた!に参加 - こどもの国「牧場まつり」開催 →P28		- 第54回雪印メグミルク杯全日本ジャンプ大会開催 →P27 - 第54回NHK杯ジャンプ大会協賛 - 普通救命講習会(東京本社)実施	「創成川公園雪だるまカーニバル」協賛 「オロロスノーパラダイス」(留萌)協賛 「キッズクッキングタウンinとままえ」(苫前町)開催	- 第27回中部日本ジュニアレスリング大会協賛 「北海道ナチュラルチーズ製造レベルアップ研修」地域交流会開催 →P30
くらしフェスタ東京2012に参加					

“私のチャレンジ”

雪印メグミルク(株) 北海道統括支店 官幣領 陸
何事にも前向きな姿勢で元気よく取り組みます。



地域社会との共生

北海道包括連携協定 さっぽろまちづくりパートナー協定での取組み

雪印メグミルクグループは2007年に酪農の振興や食の安全・安心などの取組みを中心に北海道経済の活性化を図ることを目的として北海道と「包括連携協定」を、2012年には、「健やかな子どもの成長のためのまちづくり」という観点から、札幌市と「さっぽろまちづくりパートナー協定」を締結し、様々な事業に協働して取り組んでいます。



小学生向け職業体験イベント「ミニさっぽろ」に出店しています



高校生向け人材育成授業に講師を派遣しています



親子パークゴルフ大会を開催しています

2012年度取組み事例

道庁赤れんが前庭花壇の設置(北海道)	有数の観光スポットである道庁赤れんが庁舎前に花壇を設置
札幌市役所前「おもてなし花壇」の設置(札幌市)	札幌市役所前庭にコンテナ花壇を提供
ホッカイドウ競馬への協賛(北海道)	道営門別競馬に冠レースを協賛
サイエンスパークへの参加(北海道)	小学生向け科学イベントに参加
親子パークゴルフ大会の開催(札幌市)	札幌市営のパークゴルフ場で親子大会を開催
SAPPORO MARUYAMA ZOO CHEESEの発売(札幌市)	札幌円山動物園のしろくまキャラクターチーズ発売とホッキョクグマ繁殖支援
ミニさっぽろへの参加(札幌市)	小学生向け職業体験イベントへの出店
ナチュラルチーズ製造研修の実施(北海道)	道庁主催のチーズ製造研修に講師派遣や施設提供で協力
道内高校生向けの人材育成授業(北海道)	道立高校の課外授業に講師を派遣

地域社会との共生

北海道包括連携協定「ホッカイドウ競馬」への協賛の実施

北海道は、地域経済に与える影響や国内唯一の競走馬の産地競馬としての役割や重要性を総合的に勘案し、その存続に向けての取組みを行なっています。

雪印メグミルクおよび雪印種苗は北海道との包括連携協定の一環として、毎年ホッカイドウ競馬に協賛しており、2012年7月3日と8月23日に両社が協賛した「ホッカイドウ競馬」が門別競馬場で開催されました。

当日は、ファンサービスとして配付する雪印メグミルク飲料やガセリ菌太郎ボールペンの提供、雪印種苗の馬用サプリメントの展示など、昨年以上に趣向を凝らした内容といたしました。

また、冠レースとしては「雪印メグミルク特別ガセリ菌太郎

賞」、「雪印種苗スノービルダー特別」の2レースに協賛し、優勝した騎手、調教師、生産牧場関係者に賞状と副賞(「毎日骨ケアMBP®」と雪印種苗馬用サプリメント新製品「スノービルダー」)を贈呈しました。



来場されたファンの皆さんに当社の飲料などを配りし、喜んでいただきました



「ガセリ菌太郎賞」の出走を告知する電光掲示板



“私のチャレンジ”

ビースターク・スノー(株) 東日本統括支店 (左から) 國友・尾形・山根・坂東

入社時に産まれた赤ちゃんも今年は二十歳！これからも赤ちゃんとお母さんのためにチャレンジしていきます。

地域社会との共生

北海道包括連携協定 北海道ナチュラルチーズ製造レベルアップ研修の実施

北海道庁が主催する「北海道ナチュラルチーズ製造レベルアップ研修会」には、北海道との包括連携協定「酪農の振興に関する事項」に沿い、チーズ製造技術の普及に協力することを目的として、2008年から講師の派遣や施設の提供などで協力しています。

2012年9月に北海道庁で開催された「基礎研修」には、道内各地からチーズ作りを目指している方々約30名が参加され、雪印メグミルクおよびニチラク機械より講師を派遣し“チーズ製造に関する品質・衛生管理”の講習会を実施しました。また、11月に山梨県北杜市小淵沢町の当社チーズ研究所にてチーズ工房職員5名に参加いただき、チーズ製造者の養成を目的に、4日間にわたって「ゴーダチーズの製造実習」を実施しました。さらに、2013年3月に興部町で地域全体のレベル向上やネットワーク作りを目的に「地域交流会」が開催され、地元チーズ工房の見学や国内外チーズの食べ比べ、意見交換会などが行なわれました。

いずれの取り組みも北海道庁や参加者から高い評価を受けており、特に製造実習には複数回参加している方が数多くいます。

今後も北海道の酪農基盤の強化と酪農・乳業の発展に貢献すべく、これらの取り組みへの協力を継続していきます。



おいしいチーズ作りに貢献していきます

地域社会との共生

酪農と乳の歴史館・工場見学の実施

雪印メグミルクグループでは、札幌にある「酪農と乳の歴史館」と全国9ヶ所の工場で見学が可能です。

「酪農と乳の歴史館」は日本で最初の乳業の歴史館で、「北海道遺産」、「地域活性化に役立つ近代化産業遺産」に認定されています。館内では、日本の酪農・乳業の発展の様子を実物の機器や模型などで紹介しています。また工場では、小学校の社会科見学や家族連れのお客様に牛乳・乳製品の実際の製造の様子をわかりやすくご案内しています。

2012年度は、全国で55,506名の団体・個人のお客様にご来場いただきました。

・工場見学のお申し込み連絡先 →P43



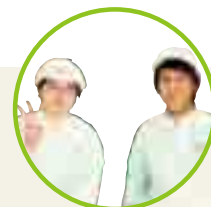
酪農の歴史をわかりやすくお伝えしています



工場見学では牛乳・乳製品の製造の様子をご紹介します。写真は、なかしべつ工場見学の様子

“私のチャレンジ”

雪印メグミルク(株) 海老名工場 製造二課 矢野 里佳(左)・田中 浩貴(右)
一年目で学んできたことを活かして、自分らしく仕事に取り組んでいきたい!!



働きがいのある会社の実現のために

従業員一人ひとりが自らの成長を実感して働きがいを感じられることが、会社の発展につながっていると考え、その実現を目指して様々な施策を展開しています。

「人材育成=自己実現システム」の基本方針

当社の財産であり発展の原動力は「人」であることから、「人」の成長を通して「組織」の成長へつなげることを念頭に置き、以下の方針、取組みにより「常に挑戦する人」の育成を進めています。

基本方針

- ① 中期経営計画達成に向けた人材の育成を、経営状況を踏まえ、過去の育成手段に拘らず、知恵を出して工夫し推進する。
- ② 階層別研修を通して企業理念浸透をはじめ中期経営計画や階層に応じた自身の役割認識を高める。
- ③ 公募研修および自己啓発通信教育等による「挑戦」の機会提供を通して「自己実現」を支援する。

「キャリア・チャレンジ・プロジェクト」

希望者本人がチャレンジしたい募集分類(部門・職種)にエントリーする公募を「キャリア・チャレンジ・プロジェクト」として実施しました。選考は自己実現意欲の高い人材に、将来の目標に向けた次のステップに踏み出してもらうことを主眼に行ない、その結果、85名が応募し、16分類27名が希望分類へ異動

しました。

今後も、新しい仕事に挑戦できる機会を拡大し、自らのキャリア形成に向けた主体的な行動を促すことで、組織の活性化を図っていきます。

「ワーク・ライフ・バランス アイディア賞」受賞

雪印メグミルクでは、時間外労働削減の取組みや、育児・介護支援の制度を通して、社員のワーク・ライフ・バランスの実現に向けて努力しています。

ジョブリターン制度やイクメンパック、育児・介護休職者に

対する支援制度など、当社が独自に様々な形でワーク・ライフ・バランスの充実に取り組む姿勢が評価され、新宿区から「平成24年度ワーク・ライフ・バランス アイディア賞」を授与されました。

お子様が誕生した男性従業員に、『子育て支援に関する制度・サービス』という説明のリーフレットとお祝いカード、粉ミルクのサンプルを「イクメンパック」として送付し、ご家族ともども制度を知って使ってもらえるように働きかけています。



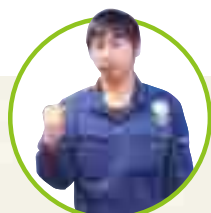
「イクメンパック」を配布しています



トロフィーを受け取った尾崎副社長と新宿区長



「イクメンパック」などの取組みが評価されました



“私のチャレンジ”

雪印メグミルク(株) 京都工場 工務一課 中村 幸祐

多種の資格取得にチャレンジします。チャレンジを通して技術力を磨き、工務のプロを目指します。

〇 階層別研修

「企業理念の浸透」、「中期経営計画や階層に応じた自身の役割認識」、「部門を越えた積極的な交流」を目的に各階層別研修を実施しています。

職制(主任・副主任)研修

工場・ロジスティクスセンターの職制(主任・副主任)を対象に、職場・ラインの責任者としての知識習得や職場運営のための研修を行なっています。

2012年度は「職場コミュニケーション」をメインテーマに、コミュニケーション手法の理解を深めました。また、ディスカッションなどを通し、課題共有の機会にも活用しています。



職場・ライン責任者としての知識習得に取り組んでいます

新入社員研修

雪印メグミルクでは、「常に挑戦する人」という人事理念に則り、新入社員研修をその土台作りと位置付けています。プログラムではビジネスマナー、会社の歴史・企業理念、会社の仕組み、商品知識、品質保証・衛生管理などを学び、社会人として、また雪印メグミルクの一員としての基礎力を養います。

食品メーカーのものづくりの現場を知る機会として、1～2ヶ月の工場実習も取り入れています。



新入社員も雪印メグミルクの一員として日々学んでいます

〇 自己啓発通信教育講座

人事理念の「常に挑戦者であること」に基づき、豊かな知識・技能・創造性を身につけるべく、通信教育による従業員育成支援を実施しています。2012年度は、従業員の5人に1人、1,100名近い応募者がありました。今年度も内容を充実させ継続していきます。



リーフレット

雪印メグミルクの自己啓発通信教育講座リーフレットを活用しています

〇 社内サイト「キラリ!雪メグ WOMAN」

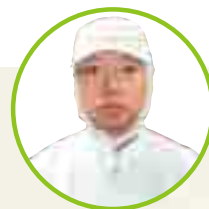
雪印メグミルクではイントラネットに、「キラリ!雪メグ WOMAN」というサイトを開設しています。サイトでは、育児・介護に関わる社内制度や他社事例の紹介、女性社員を密着取材し生の声や仕事を紹介する「キラリ女性社員紹介」、女性社員間のコミュニケーションや情報共有を図るための「リレーブログ」「コラム」など、女性の活躍を促す色々なコーナーを設けています。



女性社員だけでなく男性社員にも読まれています

“私のチャレンジ”

雪印メグミルク(株) 豊橋工場 製造一課 クリーム充填 荻野 祐希
品質と安全を常に頭の中に入れ、先を考えて行動できる自分になりたい。



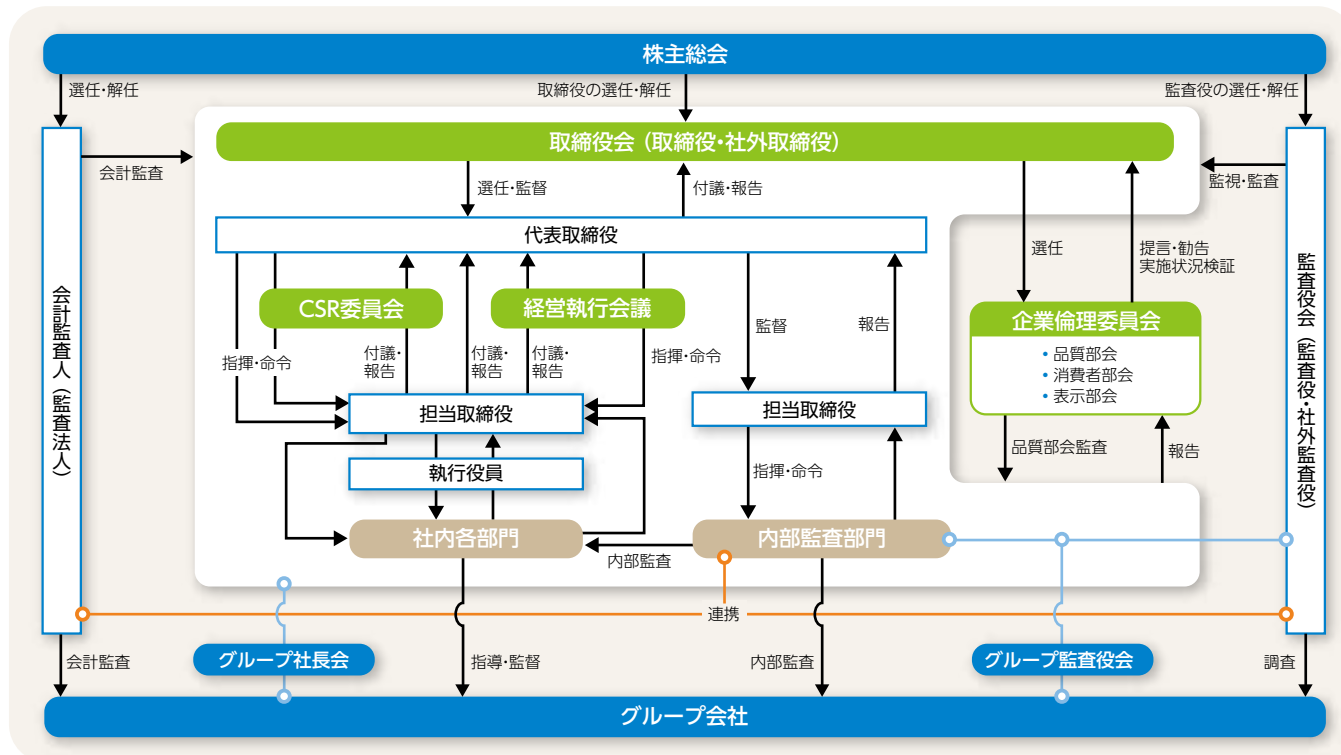
コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

経営における透明性の確保と社外からの監視機能の強化、市場の変化に即応できる経営体制の確立を柱に企業価値を向上させていくことをコーポレート・ガバナンスの基本方針としています。

外部有識者を構成メンバーに加えた企業倫理委員会の設置、社外取締役の選任などにより、経営に対する監視・監督機能の強化を図っています。

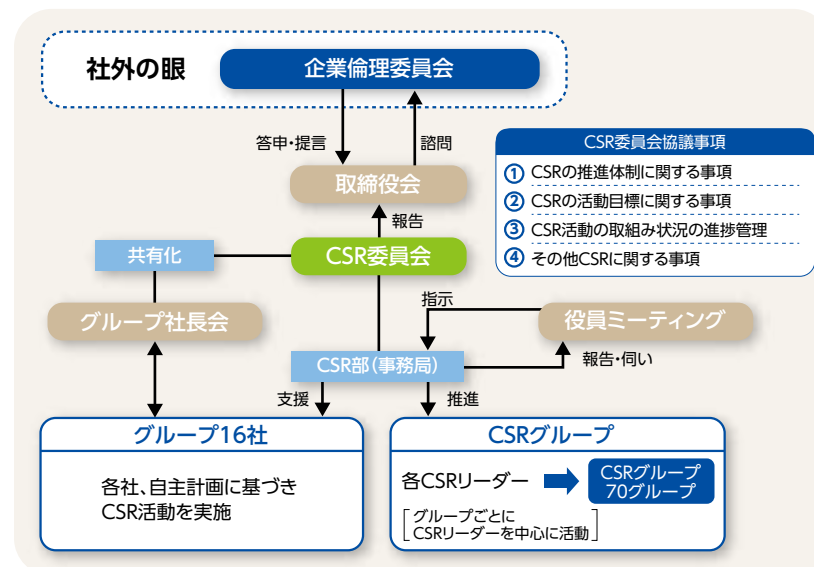
コーポレート・ガバナンス体制図



CSR委員会

雪印メグミルクグループではCSRを推進していく経営レベルのガバナンスとして、「CSR委員会」を設置しています。委員会は社長が委員長を務め、全常勤取締役ならびにCSR部長を委員とし、グループが年度で取り組んできたCSR活動の総括を行ない、次年度の活動目標および活動方針を定めています。

CSR推進体制図



“私のチャレンジ”

雪印メグミルク(株) 厚木マーガリン工場 製造課 鶴飼 剛士

マーガリンの知識をもっとつけて、レベルアップしたい。あと、資格を取る！

企業倫理委員会 — 社外の眼 —

企業倫理委員会は、社外の有識者・労働組合代表および社内委員によって構成されています。この委員会は取締役会の諮問機関として、原則毎月1回の定例委員会を開催しています。そこでは、経営全般に対する「社外の眼」による検証や提言がなされ、それらは経営に活かされています。なお、企業倫理委員会には、品質部会、消費者部会、表示部会の3つの専門部会があります。

・企業倫理委員会 委員一覧 →P44



これまで毎月欠かさず開催されています

品質・衛生管理の徹底に努めています — 品質部会 —

工場の品質管理、衛生管理の徹底およびレベルアップを目的として、その道のエキスパートである専門委員が実際に工場へ赴き、監査を実施するとともに、現場担当者との意見交換などを行なっています。工場では、監査での指摘事項や推奨事項に対して改善策を取りまとめ、企業倫理委員会への報告を行なっています。



厳しい目でチェックがなされています

消費者重視経営の実践のために — 消費者部会 —

消費者部会は、企業理念の3つの使命の1つである「消費者重視経営」を実践するために社外の声を傾聴し、その声を経営に反映させていこうとする取組みを行なっています。部会では、消費者団体の代表者の皆様に雪印メグミルクグループの取組みをお伝えし、消費者目線で評価いただき、また貴重なご意見をいただきます。

これからは従来の活動内容を一歩進めて、消費者団体の代表者の皆様と共通の課題に対して協働した取組みを展開していきます。



新たな取組みに向け活発な意見交換がなされました(左：関東・右：関西)

消費者視点で表示の確認を行なっています — 表示部会 —

表示部会では消費者視点で商品などの表示を確認しています。

確認のポイントは、商品パッケージや各種販促物などの表示が消費者に誤解や誤認を与えることがないか、信頼されるわかりやすい情報を提供しているか、などです。



消費者にとってよりわかりやすい表示にしていけるために熱心な討議がなされています

“私のチャレンジ”

雪印メグミルク(株) 首都圏北支店 牛乳販売店一課 三井 雄大^{ゆうだい}(左)
牛乳販売店さんと協力しながら、牛乳・乳製品でお客様の健康習慣をサポートします!



コンプライアンス

雪印メグミルクグループ行動規範、雪印メグミルク行動基準

雪印メグミルクグループ行動規範は、雪印メグミルクグループが社会的責任を果たしていく上での行動の基本を示したものです。また、行動規範を具体的にして、遵守すべき事項を取りまとめたものが、雪印メグミルクグループの各社

が制定した自主行動基準です。雪印メグミルクグループの役員・従業員は行動規範と自主行動基準を全ての活動の基本としています。

雪印メグミルクグループ行動規範

私たち、雪印メグミルクグループは、社会に対して果たしていくべき自らの責任を自覚し、社会とともに成長していくことができるように、以下の通り行動いたします。

- 私たちを取りまく全ての人たちの気持ちを大切に、誰からも信頼されるよう行動します。
- 品質管理を徹底し、安全で良質な商品・サービスを提供します。
- コンプライアンスを徹底し、公正で透明性のある企業活動を行ないます。
- 会社の財産および情報の保全・管理を徹底するとともに第三者の権利を尊重します。
- 企業活動を通して、社会貢献と環境保全に取り組みます。
- 自由と革新にあふれた企業風土を構築し、安全で働きがいのある職場環境をつくれます。

食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動～雪印の事件を風化させない～

「食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動～雪印の事件を風化させない～」は、当社の前身の一つである雪印乳業グループが起こした2つの事件（「雪印乳業食中毒事件」「雪印食品牛肉偽装事件」）の本質的問題を常に認識して教訓とし、風化させないため、そして食品を扱う会社の役職員として、責任を強く認識し果たしていくことを誓うために、毎年、2つの事件が発生した6月と1月に実施しています。

具体的には、社外有識者による講演、品質に関する理解度テストの実施、および食中毒事件当時の報道番組を編集した映像を視聴し、二度と同様の事件を起こさないことを全役職員が確認する活動です。

・ 2つの事件について →P45



中野社長が、これからも食の責任を果たしていくという想いを熱く語りました



食品メーカーにおける衛生管理の大切さを語る、日本食品分析センター学術顧問 浅尾努先生



日本企業における倫理的課題について語る、慶應義塾大学商学部准教授 梅津光弘先生

宣誓書の提出

雪印メグミルクの全役職員は、雪印メグミルク行動基準を遵守する意思表示として、毎年10月に宣誓書に署名し、社長に提出しています。社長はCSR担当役員に提出します。



行動基準の遵守を誓い社長以下全役員も署名し、提出しています



“私のチャレンジ”

雪印メグミルク(株) 福岡工場 製造一課 庄司 奈央

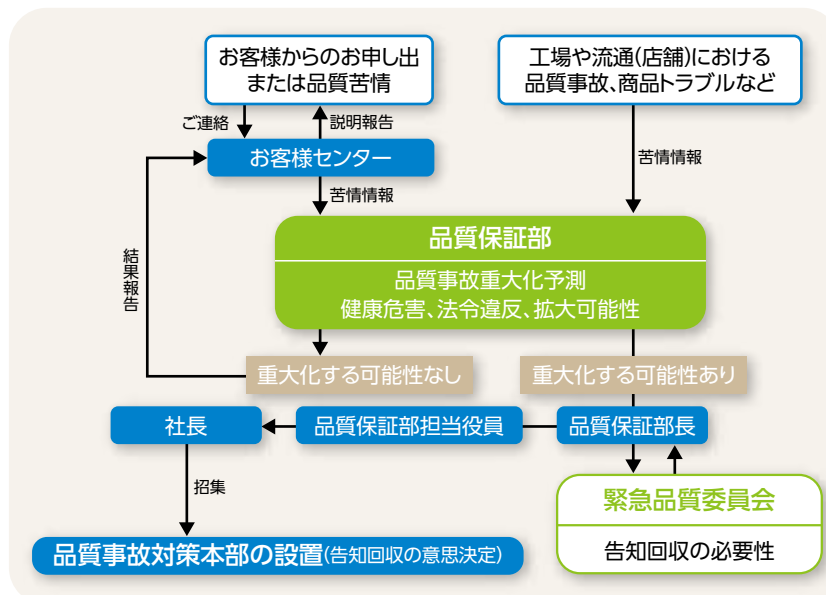
5Sの鬼になります！福岡工場は新しい工場ではありませんが、できることからコツコツと改善していこうと思います。

リスクマネジメント

品質事故の対応

雪印メグミルクは、商品の事故に迅速・適切に対応するために、危機管理体制を構築しています。日々のお客様からの申し出はお客様センターに一元化されます。その内、商品の品質に関わる情報は、品質保証部に伝えられます。同様に工場・店舗からの苦情情報も全て品質保証部に集約されます。その情報の中に健康危害、法令違反、事故拡大など重大化する可能性があるとは判断された場合には、緊急品質委員会を開催します。緊急品質委員会では、お客様の健康危害を最小限にとどめることを第一の目的とし、告知回収の必要性を含め、対応を検討します。その後、社長を対策本部長とする品質事故対策本部で告知回収の最終決定をします。

危機管理体制(品質事故対応)



内部通報制度

雪印メグミルクグループでは、グループ各社共用の社内通報相談窓口「雪印メグ Hotline」と社外通報相談窓口「社外(弁護士) Hotline」を併設しています。2つの Hotlineとも、公益通報および公益通報以外の法令違反、社内規定違反や社会から非難を受ける恐れのある重大な行為が発生した場合だけでなく、業務上のちょっとした疑問・相談・提案なども制限を設けず受け付けています。

雪印メグミルクグループ各社では、機会あるごとに「Hotline」の活用を呼びかけています。

Hotline 通報件数の推移

内容	2009		2010		2011		2012	
	社内	社外	社内	社外	社内	社外	社内	社外
人間関係について	10	2	10	0	8	0	7	2
品質について	1	0	0	1	0	0	1	0
風土改革について	2	0	1	0	0	0	2	0
コンプライアンスについて	6	2	8	1	8	1	3	1
職場での問題行動について	1	0	5	0	6	0	1	0
社内制度や仕組みへの疑問	3	0	6	1	9	0	4	1
その他	2	2	5	1	3	1	2	0
合計	25	6	35	4	34	2	20	4

社内：雪印メグ Hotline[グループ社内通報相談窓口]

社外：社外(弁護士) Hotline[社外通報相談窓口]

商品の安定供給

雪印メグミルクグループは、東日本大震災の後、広域に及び激甚災害が発生した場合を想定し、そのような中でもお客様へ商品・サービスをお届けするための仕組みを構築しました。

- ①被災状況をより迅速かつ詳細に把握するために、現行の通信手段に加えて新たな通信手段を導入しました。
- ②事業を継続するために必要な重要業務を担当する事業所が

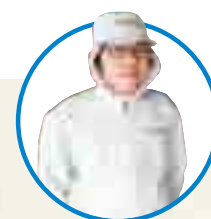
被災した場合は、重要業務の早期再開に向けて、被災していない事業所での代替対応手順を明確化しました。

- ③商品の製造に必要な原材料は、供給拠点の複数化や代替品の調達などに向けた体制を整えました。
- ④商品の輸送については、交通インフラおよび取引先の被災状況の把握に向けた連絡体制を構築するとともに、配送要員・車輛・燃料確保に向けた体制を整えました。

“私のチャレンジ”

雪印メグミルク(株) 豊橋工場 製造一課 渡邊 貴之

2年目になるが初心を忘れず、丁寧な仕事を心がけた。
また、何も分からなかった1年目とは違うので、製造者として大きく成長したい。



中期経営計画の着実な推進

戦略設備投資の実行

戦略設備投資については、海老名工場における関東地区基幹工場としての第1期生産体制整備と「ナチュレ 恵 megumi」の生産能力増強、および大樹工場における「雪印北海道100さけるチーズ」の生産能力増強を完了しています。また、阿見工場（乳製品統合工場）は、2014年度下期の操業開始に向け建設中です。このように事業強化に向けて生産基盤の構築を着々と進めています。



操業が待たれる阿見工場(完成予想図)

既存の枠組みを超えた取組みによる事業基盤の強化

よつ葉乳業グループとの共同取組については、生産・物流・資材調達の3部門を軸に、既存の枠組みを超えた協力体制の構築に向けて検討を進めています。

協同乳業グループとの業務提携については、生産・物流・

資材調達・営業の4部門を軸に、協力体制構築の検討を進め、関係をより緊密なものにするために資本・業務提携の合意に至り、協同乳業株式会社の普通株式発行済株式総数の20.15%にあたる約200万株を取得しました。

インドネシアでのプロセスチーズ事業の展開

インドネシアでのプロセスチーズ事業の展開に着手しており、2012年9月には現地新工場建設の地鎮祭を終え、2013年早期稼働を目指して順調に進んでいます。新工場を拠点に、

現地のニーズに合わせた商品展開を行ない、インドネシア市場での需要拡大を目指していきます。

インドネシアでのプロセスチーズ事業

2011年度
(平成23年度)

2月:事業展開発表

2012年度
(平成24年度)

5月:合併会社設立
9月:地鎮祭

2013年度
(平成25年度)

工場稼働予定

**早期に
売上高20億円
(シェア20%)
を目指す**

合併会社概要

社 名 PT MEGMILK SNOW BRAND INDONESIA
所 在 地 インドネシア共和国 西ジャワ州 プカシ県
代 表 者 Nuryadi Thaher
資 本 金 500万US\$
出資比率 雪印メグミルク 51%
ロダマス社 40%
伊藤忠商事 9%
事業内容 プロセスチーズの製造・販売



地鎮祭



完成予想図

国際規格ISO26000と雪印メグミルクグループ活動との対比

2010年11月に発行されたCSRに関する国際規格であるISO26000「社会的責任に関する手引」に掲げられている7つの中核主題ごとに「活動報告書2013」に掲載している取組み内容を整理し、ISO26000との対比表を作成しました。

7つの中核主題	当社取組み内容	参照ページ
1. 組織統治	雪印メグミルクグループ企業理念	P1～P2
	コーポレート・ガバナンス体制の構築	P33
	企業倫理委員会の設置	P34
	ホットライン(社内・社外)の設置・運営	P36
	CSR社員アンケートによるリスクの把握	P7,P43
2. 人権 3. 労働慣行	コンプライアンス(ハラスメント)研修の実施	P7
	人材育成研修などの実施	P31～P32
	女性活躍推進に向けた取組み	P32
	育児休職制度の実績	P45
	子育て支援休暇制度の実績	P45
	看護休暇制度の実績	P45
	短時間勤務制度の実績	P45
4. 環境	環境方針の策定	P19
	環境マネジメント体制の確立	P19
	ISO14001認証の継続	P19
	環境監査の実施	P20
	廃棄物・食品廃棄物の排出量削減、エネルギー使用量の削減	P21～P24
	温暖化ガスの排出削減	P21～P24
5. 公正な事業慣行	雪印メグミルクグループ行動規範、雪印メグミルク行動基準の策定	P35
	行動基準の定着、徹底を主目的としたCSRグループ活動の実施	P8
	行動基準遵守宣誓書への署名、提出	P35
	「食の責任を強く認識し、果たしていくことを誓う日の活動」の実施	P35
	雪印メグミルク品質保証方針の策定	P14
	雪印メグミルク品質保証システム(MSQS)の構築と運用	P14
	品質と安全性の管理・運用を確認するための監査の実施	P14,P34
	危機管理体制(商品事故発生時の対応)の構築	P14,P16,P36
6. 消費者課題	企業倫理委員会・消費者部会、表示部会の開催	P34
	お客様センターの設置および運営	P15～P16
	お客様モニター制度の実施	P16
	お客様満足向上ミーティングの開催	P16
	小中学校への出前授業、料理講習会、各種セミナーの開催	P25～P28
	酪農と乳の歴史館、工場見学の実施	P30
7. コミュニティへの参画および コミュニティの発展	酪農生産への貢献	P9～P12
	スキージャンプ、女子サッカーなどスポーツを通じた次世代育成	P27～P28
	北海道包括連携協定に基づく諸取組み	P29～P30
	夏休みファミリーミュージカルの開催	P27
	こどもの国 牧場まつりの開催	P28
	その他地域・社会への取組み	P27～P30

雪印メグミルクグループ グループ会社紹介

※2013年3月31日現在

● 雪印種苗(株)

設立	昭和25年12月	資本金	4,643百万円
グループ持株比率	100.0%	本社所在地	北海道札幌市
代表者	掛村 博之		
事業内容	種苗・農畜産物の生産および販売、飼料の製造および販売、造園事業、種苗の品種改良および試験研究		



● ビーンスターク・スノー(株)

設立	平成14年8月	資本金	500百万円
グループ持株比率	80.0%	本社所在地	東京都新宿区
代表者	澤田 健五		
事業内容	育児用粉乳・離乳食などの育児関連商品および機能性食品などの研究開発・製造・販売		



● チェスコ(株)

設立	昭和32年3月	資本金	472百万円
グループ持株比率	90.9%	本社所在地	東京都新宿区
代表者	西尾 啓治		
事業内容	ナチュラルチーズ・食料品・酒類・雑貨の輸入および製造・加工販売		



● 台湾雪印(株)

設立	平成4年12月	資本金	7百万NT\$
グループ持株比率	100.0%	本社所在地	台北(台湾)
代表者	小原 康嗣		
事業内容	育児用粉乳、乳製品等の輸入・販売		



● (株)エスアイシステム

設立	平成9年1月	資本金	400百万円
グループ持株比率	100.0%	本社所在地	東京都渋谷区
代表者	佐藤 佳嗣		
事業内容	チルド・フローズンを中心としたベンダーと共設センター運営事業		



● (株)YBS

設立	昭和46年4月	資本金	30百万円
グループ持株比率	100.0%	本社所在地	東京都新宿区
代表者	尾崎 玲		
事業内容	ビルの総合保守管理、損害保険代理業、自動販売機等のオペレーション業務、各種ビジネスサポート業務		



● ハケ岳乳業(株)

設立	昭和29年1月	資本金	60百万円
グループ持株比率	100.0%	本社所在地	長野県茅野市
代表者	藤田 昭雄		
事業内容	牛乳・加工乳・乳飲料・発酵乳の製造および仕入れ・販売、チーズの加工、運送・取扱業		



● ニチラク機械(株)

設立	昭和29年4月	資本金	50百万円
グループ持株比率	67.6%	本社所在地	埼玉県さいたま市
代表者	内田 博視		
事業内容	食料品製造を主体としたプラントおよび機械の設計、製造、施工、販売、修理およびメンテナンス		



● 直販配送(株)

設立	昭和55年4月	資本金	30百万円
グループ持株比率	70.0%	本社所在地	東京都渋谷区
代表者	齊藤 耕司		
事業内容	共同配送センターの運営事業、チルド商品配送事業、一般貨物運送事業		



● グリーンサービス(株)

設立	昭和55年11月	資本金	30百万円
グループ持株比率	70.0%	本社所在地	東京都調布市
代表者	町田 幸司		
事業内容	共同配送センター運営事業、一般貨物運送事業、自動販売機事業		



● 雪印オーストラリア(有)

設立	平成4年12月	資本金	22百万A\$
グループ持株比率	100.0%	本社所在地	メルボルン(オーストラリア)
代表者	菅野 宏行		
事業内容	育粉、ナチュラルチーズの製造・販売、乳製品の輸出入		



● (株)雪印パーラー

設立	昭和36年4月	資本金	30百万円
グループ持株比率	100.0%	本社所在地	北海道札幌市
代表者	小川 澄男		
事業内容	食堂・売店経営、乳製品などの販売		



● いばらく乳業(株)

設立	昭和34年1月	資本金	117百万円
グループ持株比率	100.0%	本社所在地	茨城県水戸市
代表者	長谷川 敏		
事業内容	牛乳、乳飲料、清涼飲料、発酵乳、デザート等の製造販売		



● 道東飼料(株)

設立	平成13年7月	資本金	300百万円
グループ持株比率	60.0%	本社所在地	北海道釧路市
代表者	梅澤 一民		
事業内容	配合飼料の製造・販売		



● (株)グレスコ

設立	昭和23年8月	資本金	38百万円
グループ持株比率	100.0%	本社所在地	東京都北区
代表者	佐野 和生		
事業内容	食品資材・軟包装・紙器・容器などの仕入販売		



● (有)ロイヤルファーム

設立	平成13年2月	資本金	10百万円
グループ持株比率	48.5%	本社所在地	青森県十和田市
代表者	寺栖 喜久男		
事業内容	肉用牛の生産・販売		



● みちのくミルク(株)

設立	平成8年10月	資本金	466百万円
グループ持株比率	100.0%	本社所在地	宮城県大崎市
代表者	小原 勝義		
事業内容	牛乳、乳飲料、清涼飲料、発酵乳、デザート等の製造販売		



● (株)雪印こどもの国牧場

設立	昭和40年8月	資本金	10百万円
グループ持株比率	100.0%	本社所在地	神奈川県横浜市
代表者	斎藤 常吉		
事業内容	牧場運営、牛乳の製造、食堂・売店経営		



● 三和流通産業(株)

設立	昭和29年1月	資本金	450百万円
グループ持株比率	100.0%	本社所在地	埼玉県さいたま市
代表者	竹本 行雄		
事業内容	日配チルド食品等の卸売事業、共設センター事業		



● 甲南油脂(株)

設立	平成4年7月	資本金	100百万円
グループ持株比率	51.0%	本社所在地	兵庫県神戸市
代表者	岡田 佳男		
事業内容	マーガリン類等の製造販売		



雪印メグミルクグループ 各社CSRリーダーからのメッセージ



経営管理部長
宮坂 定幸

ハケ岳乳業(株)

1954年創業以来、「安全・安心」をモットーに努力研鑽を積み重ねてきました。「ハケ岳の自然を、そのままご家庭へ」、ハケ岳乳業はより良い食文化の創造を目指していきます。



管理部 担当部長
川北 幸雄

(株) クレスコ

当社は、包装資材を通じ環境に配慮した商材をお客様にご提案しています。また、ジョイセフへ使用済み切手、エコキャップ推進協会へペットボトルキャップを送付し、社会貢献に取り組んでいます。



取締役 総務部長
阿部 秀造

みちのくミルク(株)

当社では、工場見学者の受け入れを行っています(年間約4千名程)。また、毎年地元で開催される「牛乳消費拡大キャンペーン」、「敬老会」等に牛乳およびデザートを提供しています。



営業課長
綿引 教行

いばらく乳業(株)

当社は、1959年創業以来「健康・自然・安心」を心がけ、「いばらく」に集う人々との調和・つながりを大切にしながら、食文化の向上・発展を目指しております。



經理
楊 文海

台湾雪印股份有限公司

当社はオーストラリアから乳幼児用粉ミルクを、日本から毎日骨ケアMBP®や乳製品類を輸入・販売し、台湾の皆様の健康に寄与する営業活動を行なっています。



代表取締役専務
竹島 昭一

ビーンスターク・スノー(株)

半世紀以上にわたり「母乳研究」にこだわり続け、安心して使っていただける粉ミルクを提供するという事業活動を通して、ビーンスターク・スノーは社会に貢献しています。



業務部長
佐藤 勇

グリーンサービス(株)

環境、社会貢献を念頭にエコキャップ収集活動に参加し、これまでに、約66人分のポリオワクチンに相当するペットボトルのキャップを収集しました(約410kgのCO₂削減にも貢献)。これからもこの活動を継続していきます。



総務課長
山下 誠

雪印種苗(株)

当社は雪印種苗行動基準を基に独自にCSR活動に取り組んでいます。一人ひとりが常日頃からコンプライアンスを意識し、また高い倫理観を持ち続けることが大切で、この行動を継続することが事件を風化させないことにつながると考えます。



代表取締役社長
菅野 宏行

雪印オーストラリア(有)

豪州は日本ほどゴミの分別は厳しくありませんが、廃棄物のリサイクルを進めています。工場周辺のコミュニティでのイベントには積極的に協賛し、地域社会へ貢献しています。



CSR に向 グループ CSRリー 中心に 推進して



取締役 総務企画部長
小林 桂

(株)雪印こどもの国牧場

動物達とのふれあいを通して子ども達に命の大切さを伝えています。また、酪農教育ファームの開催や牧場見学などにより「食と命の関係」を体感し、酪農への理解を深めていただいています。



取締役 指導部長
小西 均

(有)ロイヤルファーム

当社は快適飼養環境下、預託方式による牛肥育事業を展開しています。牛の個体識別情報活用によりトレーサビリティを強化し、安全・安心で美味しい国産牛肉の安定供給を心掛けています。



生産部長
町田 亮二

甲南油脂(株)

甲南油脂(株)は植田製油(株)内にあるマーガリン類の製造会社です。家庭用・業務用マーガリンを中心に製造していますが、神戸の海に面した立地であり環境負荷の削減に継続的に取り組んでいます。



管理部 管理課長
米山 洋

道東飼料(株)

当社は、創業12年目・平均年齢28.1歳の若い会社です。会社も社員も、今後様々な環境変化が考えられます。CSR活動を継続し対応力の強化に努めてまいります。



総務部 課長
野田 竜介

ニチラク機械(株)

「酪農・乳業への貢献」を目的として、六次産業化を目指す酪農家にチーズをはじめとする乳製品の製造技術・機器を提供しています。

の確立
けて、
各社でも
ダーを
CSR活動を
います。



代表取締役専務
福山 光一

(株)YBS

職場周辺の清掃、ペットボトルキャップの回収(世界の子どもにワクチンを)、清掃業務での知的障害者のインターンシップ受け入れ等、業務に直結した社会貢献を推進しています。



管理部 部長
町田 良克

(株)エスアイシステム

CSR活動は従業員一人ひとりの理解と協力が不可欠と考えており、社内報でのCSRに関する情報発信や、CSR社内集合研修を実施するなど普及・促進に取り組んでいます。



CSR推進部長
忍田 行廣

直販配送(株)

当社は、チルド物流33年の経験をもとに安心品質の物流に取り組むとともに、環境に配慮し、低公害車導入・エコドライブ実践・資源リサイクル活動などを行なっています。



業務部長
西口 幸雄

三和流通産業(株)

卸売業者として、情報を整理、集約し一元的に提案して業務の効率化を図り、共配化を推進してコスト削減、環境改善をすることで関係者とともにメリットを追求しています。



業務部 課長兼本店店長
山上 純

(株)雪印パーラー

札幌本店では環境への影響に配慮し、店内はLED照明を使用しております。また、バリアフリー対応で車いすのお客様にもご利用いただけるようになっております。



専務取締役
渡辺 浩

チェスコ(株)

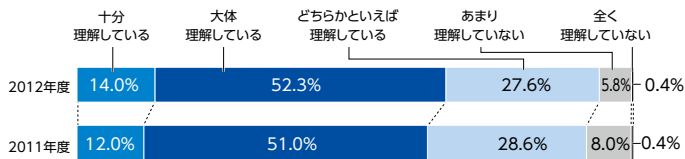
世界から美味しいチーズをお届けし、食卓を豊かにすることが私たちチェスコの使命です。全国のショップで各種のナチュラルチーズを揃えてお待ちしております。



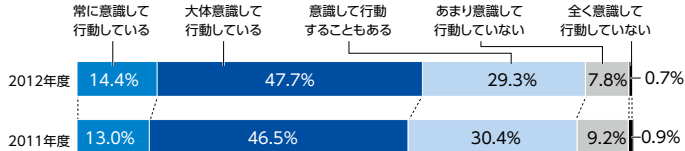
補 足 説 明

P07 雪印メグミルク CSR社員アンケート結果(抜粋)

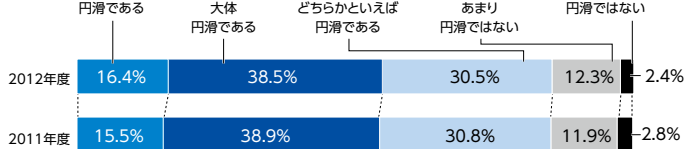
Q. あなたは「雪印メグミルクグループ企業理念」を理解していますか？



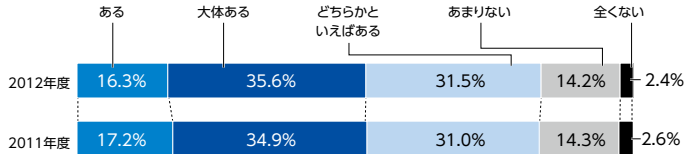
Q. あなたは「雪印メグミルク行動基準」を意識して行動していますか？



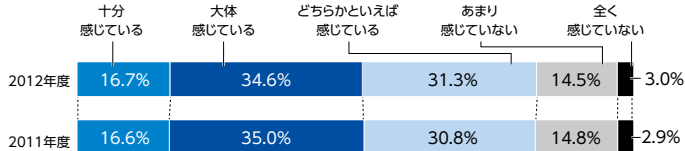
Q. あなたの職場のコミュニケーションは円滑ですか？



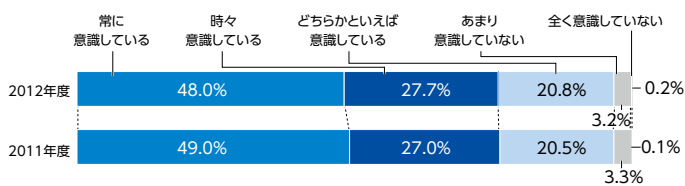
Q. あなたの職場では、誰もが自由に疑問等を問題提起できる雰囲気がありますか？



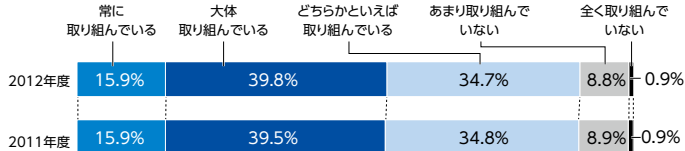
Q. あなたは、今の仕事にやりがいを感じていますか？



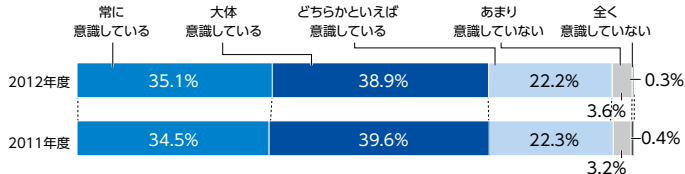
Q. あなたは、仕事の内容にかかわらず、業務を行なう際に「食の責任」を意識していますか？



Q. あなたは、MSQSのしくみに基づいて品質管理の徹底に取り組んでいますか？



Q. あなたは、常に「お客様・消費者」を意識して仕事をしていますか？



アンケート結果(%)は、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

P10 酪農諮問委員会 委員一覧 (任期：2012年4月1日～2014年3月31日)

諮問委員	まつした たかゆき 松下 隆之	JA道東あさひ 理事
	くろさわ かんじゅ 黒沢 寛寿	全国酪農青年女性会議 顧問
	さわ ひろゆき 澤 弘之	元 全農ミート (株) 代表取締役社長
	すずき のぶひろ 鈴木 宣弘	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授
	やまき まさみつ 矢坂 雅充	東京大学大学院経済学研究科 准教授
	こばやし しんいち 小林 信一	日本大学生物資源科学部 教授

P30 見学可能な工場・歴史館の連絡先

雪印メグミルク(株) 酪農と乳の歴史館

北海道札幌市東区苗穂町6丁目1番1号

TEL:011-704-2329

雪印メグミルク(株) 札幌工場

北海道札幌市東区苗穂町6丁目1番1号

TEL:011-704-2329

(受付は雪印メグミルク(株)酪農と乳の歴史館で行なっています。)

雪印メグミルク(株) なかしべつ工場

北海道標津郡中標津町丸山2丁目9番地

TEL:0153-72-3281

雪印メグミルク(株) 大樹工場

北海道広尾郡大樹町緑町35

TEL:01558-6-2121

みちのくミルク(株) 本社工場

宮城県大崎市岩出山下野目字八幡前60-1

TEL:0229-72-2011

雪印メグミルク(株) 野田工場

千葉県野田市上三ヶ尾字平井256-1

TEL:04-7122-2246

雪印メグミルク(株) 豊橋工場

愛知県豊川市伊奈町南山新田350番地79

TEL:0533-78-3711

雪印メグミルク(株) 京都工場

京都府南丹市八木町美里紫野1番地

TEL:0771-43-2150

雪印メグミルク(株) 京都工場 池上製造所

京都府南丹市八木町池上古里1番1

TEL:0771-42-6871

雪印メグミルク(株) 神戸工場

兵庫県神戸市西区伊川谷町潤和824-1

TEL:078-912-2121

●工場・歴史館の見学のご案内

工場・歴史館の見学をご希望の場合は、お手数ですが、あらかじめ各工場・歴史館にお電話でご予約願います。

第4期 企業倫理委員会・専門部会委員一覧

[肩書きは2013年4月1日現在]

社外委員	日 和 佐 信 子	元 全国消費者団体 連絡会事務局長	雪印メグミルク(株) 社外取締役
	江 澤 郁 子	日本女子大学名誉教授	医学博士・ 栄養学の有識者
	松 本 邦 明	経営倫理実践研究 センター常務理事	企業倫理の有識者
	高 谷 幸	日本食品衛生協会 専務理事	品質の専門家
	小 澤 理 恵 子	元 日本生活協同組合連合会 共済事務センター部長スタッフ	消費者関連の 有識者
	築 瀬 捨 治	長島・大野・常松 法律事務所 弁護士	法律の専門家
	森 田 満 樹	消費生活コンサルタント	消費者関連の 有識者
労働組合	遠 山 二 郎	労働組合中央執行委員長	労働組合の代表者
社内委員	佐 藤 幸 吉	代表取締役副社長	経営全般社長補佐 総務・広報・監査・ 社史編集室 担当
	井 戸 田 正	取締役専務執行役員	CSR・品質保証・ 資材調達 担当
	山 登 正 夫	取締役常務執行役員	生産統括・ 生産管理 担当

1. 企業倫理委員会・品質部会委員

[肩書きは2013年4月1日現在]

社外委員	高 谷 幸	日本食品衛生協会 専務理事	品質部会長 企業倫理委員会 委員兼任
	日 和 佐 信 子	元 全国消費者団体連絡会 事務局長	企業倫理委員会 委員兼任
	森 田 満 樹	消費生活コンサルタント	企業倫理委員会 委員兼任
	佐 藤 幸 吉	元 日本生活協同組合連合会 本部部長スタッフ 品質 管理担当	品質部会委員専任
	小 澤 理 恵 子	元 東海大学教授・医学 博士 HACCPの専門家	品質部会委員専任
社内委員	城 端 克 行	執行役員品質保証部長	表示部会委員兼任

2. 企業倫理委員会・消費者部会委員

[肩書きは2013年4月1日現在]

社外委員	松 本 邦 明	一般社団法人 経営倫理 実践研究センター常務理事	消費者部会長 企業倫理委員会 委員兼任
	日 和 佐 信 子	元 全国消費者団体連絡会 事務局長	企業倫理委員会 委員兼任
社内委員	井 戸 田 正	取締役専務執行役員	企業倫理委員会 委員兼任

3. 企業倫理委員会・表示部会委員

[肩書きは2013年4月1日現在]

社外委員	小 澤 理 恵 子	元 日本生活協同組合連合会 共済事務センター部長スタッフ	表示部会長 企業倫理委員会 委員兼任
	日 和 佐 信 子	元 全国消費者団体連絡会 事務局長	企業倫理委員会 委員兼任
	板 倉 ゆ か 子	消費生活アナリスト・ 放送大学非常勤講師 元 国民生活センター商 品テスト部調査役	表示部会委員専任
社内委員	小 西 寛 昭	取締役執行役員 研究開発・商品開発・ ミルクサイエンス研究所担当	表示部会委員専任
	城 端 克 行	執行役員品質保証部長	品質部会委員兼任
	坂 口 高 司	CSR部長	表示部会委員専任

●平成25年度 企業倫理委員会提言

平成25年度のスタートに際し、企業倫理委員会として下記の通り提言いたします。

1. 全役員・従業員が企業理念の実現という共通の目標に向け、それぞれが力を発揮し、またその力をひとつに合わせ、次の項目に取り組みましょう。

- (1)「雪印メグミルク行動基準」の内容に対する「疑問」や「意見」を率直に出し合い、皆で考えたり議論することを通して、行動基準について本当の意味での理解を深め、自分のものとして身につけ、実践していきましょう。
- (2)一人ひとりが自覚し、積極的かつ責任を持った行動に努め、明るく活力のある会社をつくっていきましょう。
- (3)経営層と現場社員および各職場内において、日頃から双方向のコミュニケーションを強化するように意識して努めましょう。
- (4)組織において極めて重要な役割を担っている「ミドル層」を中心に、次世代を牽引していく人材の育成に取り組みしましょう。
- (5)多くの女性が経営職としても積極的に活躍できるように、現行の制度が活用しやすい職場づくりを推進しましょう。

2. 専門部会(品質部会・消費者部会・表示部会)の提言は下記の各部会からの提言を参照願います。

●平成25年度 品質部会からの提言

1. 品質トラブル及び品質苦情の共有化を図り、製造工程における品質課題の解決に向けて、効果的な対策を推進しましょう。

2. 従業員一人ひとりの品質管理に対する意識向上を図ることが最重要課題です。

そのために教育・訓練を充実させましょう。特に後継者教育の取り組みを推進し、製造現場における技術の向上を図りましょう。

3. 5Sはいまだに十分なレベルに至っていません。5Sの管理レベルの向上に全力で取り組みましょう。またグループ全体のレベルアップを図りましょう。

●平成25年度 消費者部会からの提言

雪印メグミルクは、消費者重視を経営の基本のひとつに位置づけています。

ついで、下記の項目を着実に実行していきましょう。

1.重要なステークホルダーである消費者との対話（ダイアログ）の場である消費者部会をさらに充実・発展させ、企業と消費者との協働による新しい取組みの実現に努めましょう。

2.引き続き、消費者の声・意見・要望を傾聴し、誠実にこたえていきましよう。
また、消費者が知りたい情報を消費者に届ける効果的な情報発信の方法を検討しましょう。（例えば、食の安全に関わること、環境に対して取り組んでいること、など）

●平成25年度 表示部会からの提言
～ 消費者の適切な商品選択に資するために ～

- 1.消費者重視経営の観点から、消費者が求める情報、消費者に伝えるべき情報を適切に判断しましょう。そして、商品の表示や広告等では、商品パッケージ「任意表示基本マニュアル」に従い、誤認や誤解をもたらすことのない正確でわかりやすい情報を提供しましょう。
- 2.平成25年度は、食品表示に関わる法律の一元化が図られます。法制定への関心を高め、食品を製造する事業者として実情を踏まえ、行政に働きかけるなど、積極的に対応していきましょう。

P34 企業倫理委員会消費者部会に
参加いただいている主な団体一覧

【順不同】

関東	主婦連合会
	杉並くらしの情報プロジェクト
	全国消費者団体連絡会
	全国消費生活相談員協会
	東京消費者団体連絡センター
	東京都消費者月間実行委員会
	東京都地域婦人団体連盟
	日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会
関西	日本生活協同組合連合会
	京都消費生活有資格者の会
	コンシューマーズ京都(京都消団連)
	関西消費者協会
	全大阪消費者団体連絡会
	奈良県生活協同組合連合会
	日本消費経済新聞社
	日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 西日本支部

P35 2つの事件について

●雪印乳業食中毒事件

2000年6月に雪印乳業(株) 大阪工場製造の低脂肪乳などにより発生した食中毒事件。6月27日大阪市保健所に最初の食中毒患者のお申し出がありました。調査の結果、雪印乳業(株) 大樹工場で製造された脱脂粉乳が停電事故で汚染され、それを再溶解して製造した脱脂粉乳を大阪工場で原料として使用していたことがわかりました。その脱脂粉乳に黄色ブドウ球菌が産生する毒素(エンテロトキシン)が含まれていたことが原因でした。雪印乳業(株)は事件直後の対応に手間取り、商品の回収やお客様・消費者への告知に時間を要したため、被害は13,420人に及びました。この事件によって社会に牛乳・乳製品をはじめとする加工食品の製造に、不信と不安を抱かせるだけでなく、乳等省令についての乳業界の解釈と社会の理解との乖離が明らかになるなど、社会に対して大きな影響を与えてしまいました。

●雪印食品牛肉偽装事件

雪印乳業(株)の子会社であった雪印食品(株)が、国のBSE対策事業を悪用し、安価な輸入牛肉を偽って、国産牛肉として申請し、交付金を不正に受給したもので、明らかな詐欺事件。2002年1月23日の朝日、毎日両新聞に掲載されたことで発覚しました。背景には、前年のBSE牛発生に伴い、食肉業界全体で、消費者の牛肉買い控えによる大量の在庫を抱えるという状況がありましたが、最大の原因は、企業倫理に反した当事者の考えや上司の指示が根底にあったことです。事件発覚から3ヵ月後の2002年4月末に、雪印食品(株)は解散するに至りました。

人事データ

【2013年3月31日現在】

	2011年度	2012年度	範囲または時点
社員数(連結)	4,951名	4,922名	連結会社計
社員数(単体)	3,211名	3,151名	雪印メグミルク(株)
男性	2,793名	2,737名	
女性	418名	414名	雪印メグミルク(株) (出向者を含む)
女性管理職	8名	8名	
女性管理職比率	1.09%	1.13%	雪印メグミルク(株)
平均年齢	39.9歳	39.8歳	
平均勤続年数	12.1年	12.0年	雪印メグミルク(株)
障がい者雇用率	1.87%	1.98%	雪印メグミルク(株)
育児休職利用者	14名	27名	2011・2012年度 利用者 雪印メグミルク(株) (出向者を含む)
内育児休職男性 社員利用者	3名	8名	
子育て 支援休暇利用者	29名 (のべ64日)	34名 (のべ93日)	
看護休暇制度 利用者	55名 (のべ268日)	80名 (のべ310日)	
短時間勤務制度 利用者	20名	24名	

ステークホルダーからのメッセージ

ステークホルダーの方々から雪印メグミルクグループの取り組みへのご意見・ご評価とこれからの期待についてメッセージをいただきました。

旧雪印時代に起きた2つの事件は、北海道では大きなインパクトを持つ事件でした。特に食中毒事件は、私が北海道大学に赴任した2000年に発生しており、今でも記憶に残っています。ただ、10年以上経過すると、事件の記憶もずいぶん薄れてきます。当事者であればネガティブな経験は忘れないものです。組織であれば、事件を経験していない社員も増えてきます。その点を意識して、2003年から継続的に「事件を風化させない」活動に取り組んでいることは高く評価できると思います。また、2011年度の活動報告書中の社長・社員座談会における、「私にとってもこの2つの事件は何かを判断する際の原点になっています」という中野社長の発言は、非常に印象的でした。

コンプライアンス（法令遵守）活動は非常に地味な活動が多く、また、利益との関連が見えにくいいため、社内外の理解が得られにくがちです。そのため、コンプライアンスの推進にはトップのリーダーシップが非常に重要であると言われています。今後も、社長以下社員のみならずが丸となって、コンプライアンスを新生雪印メグミルクの企業文化として根付かせることを実践してほしいと期待しています。

貴社の企業理念である「消費者重視経営の実践」「酪農生産への貢献」「乳（ミルク）にこだわる」という考え方は、私たち酪農家が安心して生乳生産を行っていくうえで大変重要な課題だと考えております。

生乳の付加価値を高めていただき、一人でも多くの消費者の方々に良質な牛乳・乳製品を召し上がっていただくことが、酪農家にとっても最大の喜びであり、生乳生産を担っていくうえの大きな原動力となっております。

私たち酪農家と乳業者との関係は、よく「車の両輪」に例えられます。貴社におかれましても、今後とも酪農家との強力なパートナーシップのもと、お互いの信頼関係を深めながら、「乳」の価値を高めた牛乳・乳製品の需要拡大を通じ、酪農生産基盤の強化と持続的発展により一層貢献いただくことに、大いに期待するところで、これらのことが双方にとって望まれる、重要な方向性であると確信しております。

私たち北海道の酪農家は、貴社のスローガンである「未来は、ミルクの中にある。」に応えるよう、生産現場を強化し、今後ともしっかりと生乳生産につとめてまいりますので、よろしくお願いいたします。

子供時代の乳製品、子育て時代の粉ミルク、シニア時代になって再び乳製品と、スノーマークの雪印製品はたくさんある食品メーカーの中でも愛用している食品です。このたび、縁あって消費者部会に出席する機会をいただき、より一層雪印メグミルクグループの企業理念に触れさせていただくことができました。グループのどの商品にもついている雪印マークはどれもが雪印製品というわかりやすさにつながり、製品への信頼を増しているように受け止めています。

2013年の報告書では「乳（ミルク）にこだわる」「酪農生産への貢献」「消費者重視経営の実践」の3つの使命を掲げ、特に今回の報告書では、酪農に焦点を置いておられます。食卓から牛乳・乳製品を作り出す農場やそこに携わる人々の姿がつながり生産現場をイメージし食べものを大事にする気持ちを消費者に起こさせます。

飽食の時代にくらす私たちにとって、食べ残しを避け、食べものを大事にすることがとても重要です。企業におかれても、食品ロス問題への取り組みを一層願うことと、TPP問題で揺れ動く社会環境の中で、安全・安心な生産現場を確保しながら、国産酪農による製品を維持し消費者の健康を守り、安心できる暮らしが守れる信頼性のある企業グループ姿勢を今後も期待します。

牛乳が身体にいい、牛乳から作られたものは美味しい、ということは、皆様はよくご存知かと思います。私の仕事は、この牛乳の力が、新しい枠組みで、消費者の皆様のお役に立つ方法を考えることです。新しい枠組みとは…？

牛乳が健康に寄与している一つひとつの力については、今も研究者たちが日々解明に取り組んでいます。「この解明された力を、消費者の皆様方に喜んで頂ける形でお届けするには、どのような方法がいいのだろうか？」また、「牛乳って液体なのに、ヨーグルトのように固まったり、チーズのように伸びたり、バターのようにとろけたり様々な姿に変化する。このことは、とても不思議で楽しい。この楽しさを知っていただくには、どんな方法がいいだろうか？」ということが、新しい枠組みを考えることにつながります。試行錯誤の毎日ですが、皆さんに喜んでいただけると、苦労も吹き飛びます。

これからも皆さんをもっと笑顔にできるような未知なる取り組みに挑戦していきます。



北海道大学大学院
経済学研究科・教授

谷口 勇仁 様



北海道指定生乳生産者団体
ホクレン農業協同組合連合会
代表理事副会長

瀧澤 義一 様



特定非営利活動法人
東京都地域婦人団体連盟
事務局長

秋元 洋子 様



雪印メグミルク株式会社
事業開発部 開発推進グループ 担当課長

村上 敬子

雪印メグミルクグループの「活動報告書2013」へのご意見・ご感想をお聞かせください。

雪印メグミルクグループの「活動報告書2013」をご覧ください、ありがとうございました。本報告書についてのご意見・ご感想などをお聞かせください。今後の雪印メグミルクグループの企業活動や報告書作成に反映していきたいと考えております。お手数ですが、アンケート用紙にご記入の上、お送りいただきますようお願い申し上げます。

本誌をご希望の方は、雪印メグミルク(株)フリーダイヤルへご連絡願います。

● 雪印メグミルク お客様センター
0120-301-369 (9:00~19:00 年中無休)

雪印メグミルク(株)ホームページでも、本報告書を公開いたします。

● CSRの確立に向けて > 活動報告書
<http://www.meg-snow.com/csr/report/>



未来は、ミルクの中にある。

雪印メグミルク



この報告書は、適切に管理された森林から生まれた「FSC®認証紙」を使用し、VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの100%植物インキ、印刷工程で有害廃液を出さない水なし印刷で印刷しています。また、本文用紙には「森の町内会」による簡伐に寄与する紙を使用しています。

CUDマークはNPO法人CUDOにより、認証された製品に表示できるマークです。この報告書は色覚の個人差を問わずできるだけ多くの方に見やすいように配慮して作られています。